

2 特別展・企画展

(1) 一宮市博物館

平成 27 年度

企画展 合併 10 周年 いちのみやのあゆみ

会期 平成 27 年 4 月 25 日 (土) ～ 5 月 31 日 (日)

主催 一宮市博物館

会場 特別展示室、ラウンジ、1 階ギャラリー

印刷物 ポスター (B 2) 800 枚

リーフレット (A 4) 20,000 枚

展示解説書 16 頁 4,000 部

観覧券 4,000 枚

観覧料 常設観覧料

(一般 200 円、高・大学生 100 円、小・中学生 50 円)

開館日数 31 日間

入館者数 1,570 人 (50.6 人/1 日)

一宮市は、平成 17 年 4 月 1 日に一宮市、尾西市、木曾川町の 2 市 1 町が合併し、平成 27 年 4 月 1 日に合併 10 周年を迎えた。平成 27 年は、平成の合併から 10 年、昭和 30 年の合併から 60 年、戦後 70 年と節目の年であったため、2 市 1 町の誕生より今日に至るまでの資料や写真を展示し、これまでの当市の歩みを紹介した。

展示構成は、①写真で見る昭和のいちのみや、②新「一宮市」の誕生、③一宮市マスコットキャラクター いちみんの誕生、④新一宮市庁舎の開庁、⑤明治・大正のいちのみや、⑥描かれた昭和のいちのみや、⑦昭和の大合併、⑧いちのみやの空襲。



関連催事

鑑賞会「蓄音機で昭和 30 年代の SP レコードを聴こう！」

日時 ① 4 月 29 日 (水・祝) 午後 1 時 30 分～ 3 時 ② 5 月 24 日 (日) 午後 1 時 30 分～ 3 時

会場 博物館講座室

協力 一宮市木曾川資料館

参加者 ① 40 人 ② 58 人

見学会「昭和の地図でまちなかを歩こう！」

日時 ① まちなか探検大人コース 5 月 10 日 (日) 午後 1 時～ 3 時 30 分

② まちなか探検子どもコース 5 月 31 日 (日) 午後 1 時～ 3 時 30 分

内容 一宮駅前から出発し、一宮の中心市街地を歩きながら、昭和の地図・写真と比べる。

対象 ① 高校生以上 ② 小中学生と保護者 (保護者は 1 人、小中学生は 2 人まで)

参加者 ① 6 人 ② 21 人 (子ども 12 人、保護者 9 人)

学芸員による展示解説

5 月 3 日 (日・祝) 参加者：8 人

5 月 17 日 (日) 参加者：23 人

映像製作 製作会社：株式会社アイ・シー・シー

① 平成 17 年一宮市合併の記録 約 6 分 40 秒

② 合併後の一宮市のあゆみ 約 14 分 15 秒

③ 一宮七夕まつりの歴史 約 4 分

出品目録

No. 資料名	形状	数量	撮影・作成年月日等	所蔵
1 第1回一宮市・尾西市・木曾川町合併検討協議会	写真パネル	1	平成15年1月14日	秘書広報課
2 合併協議会首長協議	写真パネル	1	平成15年7月1日	秘書広報課
3 第1回一宮市・尾西市・木曾川町合併協議会	写真パネル	1	平成15年8月5日	秘書広報課
4 市町村合併に関する住民説明会（北方公民館）	写真パネル	1	平成15年7月15日	秘書広報課
5 一宮市・尾西市・木曾川町合併シンポジウム （木曾川町会場・木曾川町中央公民館講堂）	写真パネル	1	平成15年11月1日	秘書広報課
6 一宮市・尾西市・木曾川町合併シンポジウム （尾西会場・尾西文化会館）	写真パネル	1	平成15年12月14日	秘書広報課
7 基調講演「地域の未来と市町村合併」四日市大学総 合政策学部助教授稲沢克祐氏	写真パネル	1	平成15年11月1日	秘書広報課
8 パネルディスカッション「みんなで考えようこのま ちの未来」	写真パネル	1	平成15年11月1日	秘書広報課
9 市町村合併住民説明会（一宮市消防本部大会議室）	写真パネル	1	平成16年1月17日	秘書広報課
10 一宮市議会において、合併関連議案を可決	写真パネル	1	平成16年9月24日	秘書広報課
11 愛知県知事へ合併申請書を提出	写真パネル	1	平成16年10月13日	秘書広報課
12 一宮市・尾西市・木曾川町合併協定調印式	写真パネル	3	平成17年4月1日	秘書広報課
13 合併のぼり旗・横断幕・懸垂幕の設置	写真パネル	3		秘書広報課
14 木曾川町閉庁式	写真パネル	1	平成17年3月31日	秘書広報課
15 木曾川町閉庁式典	写真パネル	1	平成17年3月27日	秘書広報課
16 尾西市閉庁式	写真パネル	2	平成17年3月31日	秘書広報課
17 一宮市・尾西市・木曾川町合併記念式典	写真パネル	2	平成17年4月1日	秘書広報課
18 尾西庁舎開庁式	写真パネル	1	平成17年4月1日	秘書広報課
19 木曾川庁舎開庁式	写真パネル	1	平成17年4月1日	秘書広報課
20 合併協定書		1	平成16年8月9日	企画政策課
21 のぼり旗		1		一宮市博物館
22 大日本帝国陸地測量部2万分の1地形図	パネル	1	明治24年	
23 市町村合併の流れ	パネル	1		
24 一宮市役所・一宮市警察署・一宮市消防署	写真パネル	1		秘書広報課
25 一宮市警察署	写真パネル	1		秘書広報課
26 木曾川の水車船	写真パネル	1		秘書広報課
27 一宮市役所庁舎より北東を望む	写真パネル	1		秘書広報課
28 木曾川	写真パネル	1		秘書広報課
29 真清田神社の鳥居	写真パネル	1		秘書広報課
30 木曾川の鉄橋	写真パネル	1		秘書広報課
31 一宮警察署	写真パネル	1	昭和33年	秘書広報課
32 九品寺公園	写真パネル	1		秘書広報課
33 東海銀行（現在の旧一宮市役所西分庁舎）本町2丁 目	写真パネル	1		秘書広報課
34 一宮商工会議所屋上より本町3丁目付近	写真パネル	1		秘書広報課
35 体育館（現在の一宮スポーツ文化センター）真清田 1丁目	写真パネル	1		秘書広報課
36 消防訓練	写真パネル	1		秘書広報課
37 一宮市役所庁舎	写真パネル	1		秘書広報課
38 本町通	写真パネル	1		秘書広報課
39 織物問屋街	写真パネル	1		秘書広報課
40 大江川上空から西方面	写真パネル	1		秘書広報課
41 一宮市消防署	写真パネル	1		秘書広報課
42 一宮病院	写真パネル	1		秘書広報課
43 一宮市立市民病院	写真パネル	1		秘書広報課
44 一宮病院	写真パネル	1		秘書広報課
45 九品寺公園	写真パネル	1		秘書広報課

No. 資料名	形状	数量	撮影・作成年月日等	所蔵
46 一宮駅前の屋台	写真パネル	1		秘書広報課
47 オリンピック東京大会国内聖火リレー	写真パネル	1	昭和 39 年 10 月 2 日	秘書広報課
48 一宮市立図書館（旧体育館に入っていた）真清田 1 丁目	写真パネル	1		秘書広報課
49 駅前ロータリー	写真パネル	1		秘書広報課
50 駅前ロータリー	写真パネル	1	昭和 24 年	秘書広報課
51 尾張一宮駅前ロータリー	写真パネル	1		秘書広報課
52 一宮警察署・一宮消防署	写真パネル	1		秘書広報課
53 八幡の踏み切り	写真パネル	1		秘書広報課
54 東一宮駅バス	写真パネル	1		秘書広報課
55 萩原駅	写真パネル	1		秘書広報課
56 八幡の踏み切り	写真パネル	1		秘書広報課
57 駅ビル（尾張一宮駅）	写真パネル	1	昭和 33 年	秘書広報課
58 新一宮駅	写真パネル	1		秘書広報課
59 市役所より東を望む	写真パネル	1		秘書広報課
60 駅前ロータリー	写真パネル	1		秘書広報課
61 銀座通り	写真パネル	1		秘書広報課
62 東海銀行（現在の一宮商工会議所内 1 階）栄 4 丁目	写真パネル	1		秘書広報課
63 銀座通り	写真パネル	1		秘書広報課
64 大江川沿い	写真パネル	1	昭和 30 年頃	秘書広報課
65 通勤風景（尾張一宮駅）	写真パネル	1	昭和 33 年	秘書広報課
66 尾張一宮駅前	写真パネル	1		秘書広報課
67 本町 3 丁目 左側に見える建物「日本勧業銀行」は現在の和証券	写真パネル	1		秘書広報課
68 本町通	写真パネル	1		秘書広報課
69 銀座通り	写真パネル	1		秘書広報課
70 本町通り	写真パネル	1		秘書広報課
71 商店街の七夕	写真パネル	1		秘書広報課
72 一宮市役所庁舎の望楼	写真パネル	1		秘書広報課
73 中部電力	写真パネル	1		秘書広報課
74 東一宮駅前	写真パネル	1		秘書広報課
75 本町 3 丁目 南から北	写真パネル	1		秘書広報課
76 一宮駅より中心市街地	写真パネル	1		秘書広報課
77 一宮市マスコットキャラクターいちみんの決定	写真パネル	1	平成 22 年 3 月 31 日	秘書広報課
78 一宮市マスコットキャラクターいちみん特別住民票交付	写真パネル	2	平成 23 年 9 月 1 日	秘書広報課
79 いちみんの原画				経済振興課
80 一宮市制 70 周年記念マスコットキャラクターいちまるくん				一宮市博物館
81 いちみん T シャツ		1	平成 25 年 7 月	経済振興課
82 ランチバック足る		1	平成 23 年 7 月	経済振興課
83 ハンドタオル		3	平成 26 年 11 月	経済振興課
84 マフラータオル		2	平成 26 年 4 月	経済振興課
85 2 ポケットタオル		1	平成 26 年 4 月	経済振興課
86 いちみんピンバッジ		21	平成 23 年 4 月～平成 25 年 9 月	経済振興課
87 クリアファイル		1	平成 23 年 4 月	経済振興課
88 ぬいぐるみ小 お座り		1	平成 25 年 3 月	経済振興課
89 ぬいぐるみ小 基本		1	平成 25 年 3 月	経済振興課
90 ぬいぐるみ大 お座り		1	平成 25 年 11 月	経済振興課
91 ボールチェーンマスコット		1	平成 26 年 3 月	経済振興課
92 ステッカー		1	平成 25 年 3 月	経済振興課
93 シール（旧②）		1	平成 24 年 1 月	経済振興課
94 シール（旧①）		1	平成 23 年 4 月	経済振興課

No. 資料名	形状	数量	撮影・作成年月日等	所蔵
95 シール (新)		1	平成 27 年 3 月	経済振興課
96 マグカップ		1	平成 25 年 3 月	経済振興課
97 携帯ストラップ		1	平成 23 年 4 月	経済振興課
98 スタンプ		5	平成 27 年 3 月	経済振興課
99 ぬいぐるみ特大 お座り		1		経済振興課
100 ぬいぐるみ基本		1		一宮市博物館
101 一宮市役所庁舎 (旧一宮町役場・常念西)	写真パネル	1	大正 10 年	秘書広報課
102 一宮市役所仮庁舎 (旧一宮高等女学校校舎・新町)	写真パネル	1	大正 11 年頃	秘書広報課
103 仮市役所庁舎と新市役所庁舎位置図		1	昭和 5 年	一宮市博物館
104 一宮市役所仮庁舎平面図 (縮尺 200 分の 1)		1	大正 11 年頃	一宮市博物館
105 一宮市役所庁舎平面図 (旧一宮町役場)		1	大正 11 年頃	一宮市博物館
106 計画当初の市庁舎平面図		1	大正 11 年頃	一宮市博物館
107 「建議請願陳情関係書類」		1	大正 11 年	一宮市博物館
108 新庁舎建設概要		1	昭和 5 年	一宮市博物館
109 新市庁舎一般縦覧の公告		1	昭和 5 年 10 月 1 日	一宮市博物館
110 一宮市庁舎新築記念		1	昭和 5 年	一宮市博物館
111 新庁舎新築記念皿		2	昭和 5 年	一宮市博物館
112 名古屋新聞 昭和 5 年 10 月 5 日	パネル	1		一宮市立中央図書館
113 昭和 35 年竣工の南館 1 階平面図		1		一宮市博物館
114 一宮市役所新庁舎昭和 5 年 (『一宮市庁舎新築記念』)	写真パネル	1		一宮市博物館
115 昭和 5 年新庁舎竣工式 (昭和 5 年『市庁舎竣工式関係書類類綴』)	写真パネル	1		一宮市博物館
116 定礎箱		1	昭和 35 年	一宮市博物館
117 硬貨 (1 円、5 円、10 円、50 円、100 円)		4	昭和 35 年	一宮市博物館
118 新聞 (一宮タイムズ、蘇東新報、中部日本新聞、日本経済新聞、中部経済新聞、産経新聞、朝日新聞など)		11	昭和 35 年	一宮市博物館
119 定礎の辞		2	昭和 35 年	一宮市博物館
120 昭和 35 年に完成した新館	写真パネル	2		秘書広報課
121 市庁舎増築計画図		1	昭 33 年	一宮市博物館
122 旧名古屋銀行一宮支店 (当時、東海銀行、現一宮市役所一宮庁舎旧西分庁舎)	写真パネル	1		秘書広報課
123 新一宮市庁舎建設の様子 平成 25 年～平成 26 年	写真パネル	4		秘書広報課
124 昭和 46 年に竣工した増築工事の概要		1	昭和 46 年 3 月	一宮市博物館
125 昭和 35 年に竣工した新館の概要		1	昭和 35 年 12 月	一宮市博物館
126 一宮市との合併を訴える人々	写真パネル	1		秘書広報課
127 萩原町内に設置された尾西市役所萩原支所の看板	写真パネル	1		秘書広報課
128 萩原町内に設置された尾西市境界柱	写真パネル	1		秘書広報課
129 一宮市庁舎前で尾西市への合併を訴える今伊勢町高野島地区同盟 (現今伊勢町開明)	写真パネル	1		秘書広報課
130 中部日本新聞 尾張版 昭和 30 年 1 月 14 日	パネル	1		一宮市立中央図書館
131 昭和 29 年 12 月 5 日ごろから 12 月 11 日にかけて繰り上げられた広報戦術のチラシ		10		一宮市博物館
132 中部日本新聞 尾張版 昭和 30 年 4 月 2 日	パネル	1		一宮市立中央図書館
133 中部日本新聞 尾張版 昭和 30 年 4 月 7 日	パネル	1		一宮市立中央図書館
134 中部日本新聞 尾張版 昭和 30 年 4 月 11 日	パネル	1		一宮市立中央図書館
135 中部日本新聞 尾張版 昭和 30 年 4 月 12 日	パネル	1		一宮市立中央図書館
136 合併祝賀式		1	昭和 30 年 4 月 11 日	秘書広報課
137 合併祝賀パレード		4	昭和 30 年 4 月 11 日	秘書広報課
138 中部日本新聞 尾張版 昭和 30 年 1 月 17 日	パネル	1		一宮市立中央図書館
139 昭和 10 年市町村合併関係綴		1		一宮市博物館
140 市町村合併関係資料		3		一宮市博物館
141 一宮市長伊藤一「合併についてお願い」		2	昭和 29 年	一宮市博物館

No. 資料名	形状	数量	撮影・作成年月日等	所蔵
142 尾西市建設計画書 愛知県中島郡起町・愛知県中島郡朝日村		1		一宮市博物館
143 尾西市 中島郡今伊勢町 廃置分申請書 愛知県尾西市・愛知県中島郡今伊勢町		1	昭和30年	一宮市博物館
144 尾西市制祝賀式の会場で配布された資料(尾西商工観光案内図)		1	昭和30年	一宮市博物館
145 尾西市制祝賀式の会場で配布された資料(繊維尾西市鳥観図)		1	昭和30年	一宮市博物館
146 尾西市制祝賀式の会場で配布された資料(市勢概要)		1	昭和30年	一宮市博物館
147 尾西市制祝賀式の会場で配布された資料(尾西市制祝賀式次第)		1	昭和30年	一宮市博物館
148 一宮市千秋町支所表札		1		一宮市博物館
149 一宮市萩原町支所		1		一宮市博物館
150 一宮市奥町支所		1		一宮市博物館
151 一宮市今伊勢町支所		1		一宮市博物館
152 一宮市北方町支所		1		一宮市博物館
153 一宮市浅井町支所		1		一宮市博物館
154 一宮市丹陽町支所		1		一宮市博物館
155 一宮市西成支所		1		一宮市博物館
156 一宮市丹陽町支所	写真パネル	1	昭和30年	秘書広報課
157 新しく作られた支所の看板	写真パネル	1	昭和30年	秘書広報課
158 一宮市千秋町支所の看板	写真パネル	1	昭和30年	秘書広報課
159 一宮市西成支所	写真パネル	1	昭和30年	秘書広報課
160 一宮市浅井町支所	写真パネル	1	昭和30年	秘書広報課
161 一宮市奥町支所	写真パネル	1	昭和30年	秘書広報課
162 中部日本新聞 尾張版 昭和30年4月1日	パネル	1		一宮市立中央図書館
163 吉田初三郎 佐千原浄水場		1	昭和12年頃	一宮市博物館
164 吉田初三郎 極楽寺取水場図		1	昭和12年頃	一宮市博物館
165 一宮駅前の風景	写真パネル	1	昭和26年頃	秘書広報課
166 一宮市配水塔模型		1	昭和10年頃	一宮市博物館
167 市役所庁舎より北を望む	写真パネル	1		秘書広報課
168 一宮市役所・一宮観光観光協会「繊維都市一宮市とその近郊」		1	昭和28年発行	一宮市博物館
169 吉田初三郎・絹本著色額装「日本第一の繊維都一宮市と其近郊鳥観図」		1	昭和28年	一宮市博物館
170 名岐鉄道株式会社「名鉄電車(西部線)沿線御案内」		1	昭和10年発行	一宮市博物館
171 一宮観光協会「産業と観光の一宮市とその近郊」		1	昭和9年発行	一宮市博物館
172 尾北新聞社「名勝木曾川を中心とする 尾北交通名所鳥観図」		1	昭和10年発行	一宮市博物館
173 一宮市役所・一宮商工会議所「産業と観光の尾西地方毛織之津島」		1	昭和12年発行	一宮市博物館
明治・大正のいちのみや				
174 新愛知新聞 大正10年9月1日	パネル	1		一宮市立中央図書館
175 一宮町役場発行「愛知県一宮町地図・附営業案内」		1	大正4年	一宮市博物館
176 玉ノ井村地籍図		1	明治18年	一宮市博物館
177 一宮村戸長役場文書		4		一宮市博物館
178 郡達		5		一宮市博物館
179 濃尾震災関係書類綴		3	明治24年	一宮市博物館
180 町会議・村会議事録綴		6		一宮市博物館
181 事務引継書類綴		3		一宮市博物館
182 尾三市町村図		1	明治23年	一宮市博物館
183 歳入出予算留・歳入出決算留綴		4		一宮市博物館
184 萩原みやげ・萩原八景絵はがき「光堂川の秋月」「長隆寺の古堂」「萩原大橋」「萩原市の時雨」「稲荷の夜雨」「高木の晴嵐」「伊吹の暮雲」		7	大正～昭和初期発行	一宮市博物館

No. 資料名	形状	数量	撮影・作成年月日等	所蔵
185 防空に関する書類綴		2	昭和15年～昭和17年	一宮市博物館
186 消火薬弾		1		一宮市博物館
187 防火砂弾		1		一宮市博物館
188 灯火管制用電球・傘		6		一宮市博物館
189 警防器具 メガホン 中町伝令係		1		一宮市博物館
190 警防団北方分団 雑のう		1		一宮市博物館
191 警防器具 警防団用規定帽子		1		一宮市博物館
192 警防器具 防毒マスク		1		一宮市博物館
193 警防器具 鉄兜		1		一宮市博物館
194 戸島光基書画 紙本墨画淡彩「一宮絵日記」		2	昭和21年	一宮市博物館
195 第1回空襲警報発令(現松降1丁目) 杉本悦郎撮影 写真パネル		1	昭和17年4月19日	一宮市博物館
196 警戒警報発令中・空襲警報発令中 十一班		1		木曾川資料館
197 一宮駅前での防火訓練 杉本悦郎撮影	写真パネル	1		一宮市博物館
198 一宮市本町の防火演習	写真パネル	3	昭和15年頃	一宮市博物館
199 一宮市内の学校での防火演習	写真パネル	1	昭和15年頃	一宮市博物館
200 一宮市本町の防火演習	写真パネル	11	昭和15年頃	一宮市博物館
201 学校の防火演習	写真パネル	1	昭和15年頃	一宮市博物館
202 一宮市街風景写真	写真パネル	14	昭和21年1月～2月	一宮市博物館
203 配給関係書類綴		4	昭和16年度～昭和18年度	一宮市博物館
204 衣料切符・味噌配給通帳		1		一宮市博物館
205 雑誌『少女倶楽部』昭和12年9月号ふろく「日支事変のお話」		1	昭和12年9月	大口町歴史民俗資料館
206 坂本守弘『まんぐわ 進む兵隊』		1		大口町歴史民俗資料館
207 昭和18年度「徴兵検査の葉」		1		大口町歴史民俗資料館
208 臨時招集令状		1	昭和18年3月	大口町歴史民俗資料館
209 爆撃予告ビラ		1	昭和20年	江南市歴史民俗資料館
210 ポツダム宣言和訳ビラ		1	昭和20年	大口町歴史民俗資料館
211 田河水泡『のらくろ』シリーズ復刻版		9		大口町歴史民俗資料館
212 石刀神社祭礼用山車の木製車輪		1		一宮市博物館
213 中部日本新聞 昭和20年7月14日	パネル	1		一宮市立中央図書館
214 中部日本新聞 昭和20年7月30日	パネル	1		一宮市立中央図書館
215 旭機械特設自営団防空心得		1		大口町歴史民俗資料館
216 焼夷弾		3	昭和初期	一宮市博物館
217 第1回一宮空襲での大型焼夷弾(松降1丁目東側に落下) 杉本悦郎撮影	写真パネル	1	昭和20年7月13日	一宮市博物館

写真パネル展示 写真に見る一宮七夕まつり

会期 平成27年7月1日(水)～7月26日(日)

主催 一宮市博物館

展示協力 秘書広報課、経済振興課

会場 1階ギャラリー

観覧料 常設観覧料(一般200円、高・大学生100円、小・中学生50円)

開館日数 23日間

入館者数 777人(33.7人/日)

昭和31年から始まった「おりもの感謝祭 一宮七夕まつり」は今年で記念すべき60回目を迎え、当時の写真などを通して、これまでの歴史を振り返った。展示資料は、第1回～第59回までの写真パネル、第60回ポスター、第60回協賛記念グッズ及び宣伝用団扇・ポストカード、ミス織物コンテスト写真パネルなど。

夏季小展示 うつわのうつりかわり

会期 平成27年7月18日(土)～8月23日(日)
 主催 一宮市博物館
 会場 小展示室
 印刷物 展示解説書 A4判 8ページ 2,000部
 観覧料 常設観覧料(一般200円、高・大学生100円、
 小・中学生50円)
 開館日数 32日間
 入館者数 4,447人(138.9人/1日)

器は、食材を調理するため、または調理された料理を盛り付けるために欠かすことのできない道具である。現在、日本で最古の器は16,500年前ごろから使用されていた縄文土器であると考えられており、土器という器を使い始めるということは、人間の生活に大きな影響を与えたと評価されている。土器を使うことで煮炊きができるようになり、食べられる物が増え食生活が改善されたと考えられるからである。土器が使われるようになって以来、器は今日まで使いつづけているが、昔から今までずっと同じ形をしていたわけではなく、その時代の人々の生活に合わせて、その姿を変えてきた。

本展示会では、一宮市博物館に所蔵される縄文土器から現代の茶碗にいたる様々な時代の多様な器を一堂に会し、器が生まれてから今にいたるまでの移り変わりを紹介した。

展示資料は、縄文土器、弥生土器等の考古資料。羽釜、茶碗等の民俗資料。他に写真パネルを作成し、資料展示の補助とした。

展示構成は、①煮る・炊く、②盛る、③蒸す、④注ぐ、⑤こねる、⑥する・おろす。



出品目録

No.	資料名	出土遺跡	数量	所蔵
1	深鉢	佐野遺跡	1	一宮市博物館
2	S字状口縁台付甕	北川田遺跡	1	一宮市博物館
3	羽釜	大毛沖遺跡	1	一宮市博物館
4	内耳鍋	大毛池田遺跡	1	一宮市博物館
5	羽釜	-	1	一宮市博物館
6	炊飯器	-	1	一宮市博物館
7	浅鉢	馬見塚遺跡	1	一宮市博物館
8	高杯	尾張病院山中遺跡	1	一宮市博物館
9	杯身・杯蓋	塩竈神社古墳	1	一宮市博物館
10	椀	馬寄集落東遺跡	1	一宮市博物館
11	漆椀	苅安賀遺跡	1	一宮市博物館
12	茶碗	-	1	一宮市博物館
13	甑	丹陽町森本	1	一宮市博物館
14	蒸籠	-	1	一宮市博物館
15	甕	塩竈神社古墳	1	一宮市博物館
16	水注	元屋敷遺跡	1	一宮市博物館
17	鉢	大毛池田遺跡	1	一宮市博物館
18	片口鉢	-	1	一宮市博物館
19	おろし皿	-	1	一宮市博物館
20	搦鉢	元屋敷遺跡	1	一宮市博物館

企画展 2015 一宮美術作家協会展

会期 平成 27 年 8 月 29 日 (土) ~ 9 月 13 日 (日)
会場 特別展示室、講座室、ラウンジ、1 階ギャラリー、小展示室
印刷物 はがき 3,500 枚
観覧料 常設観覧料
(一般 200 円、高・大学生 100 円、小・中学生 50 円)

開館日数 14 日間
入館者数 1,876 人 (134 人 / 1 日)

一宮美術作家協会会員 61 名の作品を展示。特集展示は小倉照江、小倉義夫。

出品者

日本画	小笠原千鶴	橋本 進	彫塑
大島奈知子	梶浦 寿布	平林 幸子	川原 孝文
加島 昌子	鬼頭 厚生	堀尾 一郎	長谷川厚一郎
河村 明美	木村 満幸	前野 恒	
嶋 千世子	小出きよ子	増田 和臣	工芸
高橋 弘子	後藤 一三	松本 幹永	石田 元子
丹羽 桃慶	後藤 泰洋	松本 耀子	鵜飼 辰郎
松岡 彩子	櫻井 幹郎	三輪 修	澤田 進治
	左合 英明	三輪 清弘	土屋 保徳
洋画	佐藤 典子	村上佳久子	林 節子
伊藤 眞己	すぎもと和	山崎 澄	夫馬 信行
井上 雅夫	関野 敦	山田 光代	松岡 孝司
岩田 哲夫	高森 和子	吉川 忠史	
江村 亨	高山 悟	吉田まさ子	デザイン
大石 晴美	滝野 弘次	若月 陽子	石井佳代子
大島 辰子	寺西 洋二		岡崎 美穂
大島 信人	富田 信子		百々 佳美
大塚 将司	野原 三義		森 昭夫

企画展 一宮写真協会選抜写真展

会期 平成 27 年 9 月 17 日 (木) ~ 9 月 27 日 (日)
会場 特別展示室、講座室、ラウンジ
印刷物 はがき 3,000 枚
観覧料 常設展観覧料
(一般 200 円、高・大学生 100 円、小・中学生 50 円)

開館日数 10 日間
入館者数 1,305 人 (130.5 人 / 1 日)

一宮写真協会会員のうち 33 名の作品を展示。副題は「時を 撮り 時代に継ぐ。」

出品者

青木 尚子	大西 正信	木村 晴子	長谷川蕪江
安藤 正一	大矢真理子	小島 高子	林 三平
安藤 治仁	岡田 忠夫	櫻井 悦子	林 孝弘
安藤 雅彦	小川 照秋	櫻井 慶子	林 都美子
市川 勝朗	尾関 君代	千田 陸末	夫馬 勲
伊藤 繁雄	笠野 俊彦	所 由紀子	水谷 嘉男
今井 要	加藤 紀子	中村 薫	(50 音順)
今枝 吉宗	金森 光紀	橋本 秀子	
上津 福三	木村 龍雄	長谷川隆光	

特別展 浮世絵展～描かれた風景～ 広重 これも東海道五拾三次
 会期 平成 27 年 10 月 3 日 (土) ～ 11 月 23 日 (月・祝)
 10 月 3 日 (土) 午前 9 時より開会式
 主催 一宮市博物館
 共催 中日新聞社
 会場 特別展示室、講座室、小展示室、ラウンジ、
 1 階ギャラリー
 印刷物 ポスター (B 2) 700 枚
 リーフレット (A 4) 60,000 枚
 図録 1,000 部
 観覧券 (4 種) 15,200 枚
 観覧料 一般 500 円、高校・大学生 300 円、小・中学生 200 円
 開催日数 44 日間
 入館者数 6,386 人 (145.1 人/1 日)

江戸時代の人々に愛好された浮世絵版画は海外でも高く評価され、日本を代表する美術といえる。この展覧会では、歌川広重 (1797～1858) の保永堂版《東海道五十三次》全 55 図に加え、その改作版などを展示し、多色刷り版画である浮世絵の製作工程や当時の受容のあり方を紹介するとともに、江戸時代の旅の様子なども解説した。

本展によって、日本美術に対する理解を深めると同時に、その背後にある歴史事象への関心を高めることを目的とした。



出品作品 歌川広重作・保永堂版《東海道五十三次》全 55 図 (個人蔵) などの浮世絵版画作品 63 点

関連催事

「広重の風景版画 魅力のからくり」

講師 神谷 浩 (国際浮世絵学会常任理事・名古屋市博物館副館長)
 日時 10 月 18 日 (日) 午後 1 時 30 分～ 3 時
 会場 博物館講座室
 聴講者 64 人

「広重えがく 一臥遊の愉しみ」

講師 前田 詩織 (中山道広重美術館学芸員)
 日時 11 月 8 日 (日) 午後 1 時 30 分～ 3 時
 会場 博物館講座室
 聴講者 41 人

「はじめての浮世絵鑑賞講座」

日時 ① 10 月 11 日 (日) ② 11 月 1 日 (日) ③ 11 月 15 日 (日) ④ 11 月 22 日 (日)
 各回午後 1 時 30 分～
 参加者 ① 71 人 ② 38 人 ③ 63 人 ④ 64 人

出品目録

No.	作品名	本紙寸法 (cm)	版元※	刊行年
作者：1～16 初代歌川広重				
1	東海道五拾三次之内 日本橋 朝之景	初版図 22.4 × 34.8	竹内孫八・鶴屋喜右衛門	天保4年～6年頃 (1833～35)
2	東海道五拾三次之内 日本橋 行烈振出	変わり図 22.5 × 35.0	竹内孫八	天保6年頃 (1835)
3	東海道五拾三次之内 品川 日之出	初版図 23.0 × 35.6	竹内孫八・鶴屋喜右衛門	天保4年～6年頃 (1833～35)
4	東海道五拾三次之内 品川 諸侯出立	変わり図 22.9 × 35.5	竹内孫八	天保6年頃 (1835)
5	東海道五拾三次之内 川崎 六郷渡舟	初版図 23.0 × 35.5	竹内孫八・鶴屋喜右衛門	天保4年～6年頃 (1833～35)
6	東海道五拾三次之内 川崎 六郷渡舟	変わり図 23.0 × 35.6	竹内孫八	天保6年頃 (1835)
7	東海道五拾三次之内 神奈川 台之景	初版図 23.0 × 35.7	竹内孫八	天保4年～6年頃 (1833～35)
8	東海道五拾三次之内 神奈川 台之景	変わり図 22.6 × 35.6	竹内孫八	天保6年頃 (1835)
9	東海道五拾三次之内 保土ヶ谷 新町橋	23.2 × 35.9	竹内孫八・鶴屋喜右衛門	天保4年～6年頃 (1833～35)
10	東海道五拾三次之内 戸塚 元町別道	初版図 23.0 × 35.6	竹内孫八・鶴屋喜右衛門	天保4年～6年頃 (1833～35)
11	東海道五拾三次之内 戸塚 元町別道	変わり図 22.9 × 35.1	竹内孫八	天保6年頃 (1835)
12	東海道五拾三次之内 藤澤 遊行寺	23.2 × 35.7	竹内孫八	天保4年～6年頃 (1833～35)
13	東海道五拾三次之内 平塚 縄手道	23.0 × 35.6	竹内孫八・鶴屋喜右衛門	天保4年～6年頃 (1833～35)
14	東海道五拾三次之内 大磯 虎ヶ雨	23.0 × 35.5	竹内孫八	天保4年～6年頃 (1833～35)
15	東海道五拾三次之内 小田原 酒匂川	初版図 23.2 × 35.5	竹内孫八	天保4年～6年頃 (1833～35)
16	東海道五拾三次之内 小田原 酒匂川	変わり図 22.9 × 35.2	竹内孫八	天保6年頃 (1835)
作者：17～18 二代歌川広重				
17	諸国名所百景 尾州名古屋真景	33.8 × 22.1	魚屋栄吉	安政2年頃 (1855)
18	諸国名所百景 尾州名古屋真景	33.6 × 22.0	魚屋栄吉	安政2年頃 (1855)
作者：19～63 初代歌川広重				
19	東海道五拾三次之内 箱根 湖水図	22.8 × 35.5	竹内孫八	天保4年～6年頃 (1833～35)
20	東海道五拾三次之内 三島 朝霧	22.8 × 35.0	竹内孫八	天保4年～6年頃 (1833～35)
21	東海道五拾三次之内 沼津 黄昏図	22.5 × 35.5	竹内孫八	天保4年～6年頃 (1833～35)
22	東海道五拾三次之内 原 朝之富士	22.7 × 35.4	竹内孫八	天保4年～6年頃 (1833～35)
23	東海道五拾三次之内 吉原 左富士	22.9 × 35.5	竹内孫八	天保4年～6年頃 (1833～35)
24	東海道五拾三次之内 蒲原 夜之雪	22.6 × 35.4	竹内孫八	天保4年～6年頃 (1833～35)
25	東海道五拾三次之内 由井 薩埵嶺	22.7 × 35.5	竹内孫八	天保4年～6年頃 (1833～35)
26	東海道五拾三次之内 奥津 興津川	22.5 × 35.1	竹内孫八・鶴屋喜右衛門	天保4年～6年頃 (1833～35)
27	東海道五拾三次之内 江尻 三保遠望	22.9 × 35.5	竹内孫八	天保4年～6年頃 (1833～35)
28	東海道五拾三次之内 府中 安部川	22.5 × 35.1	竹内孫八	天保4年～6年頃 (1833～35)
29	東海道五拾三次之内 鞠子 名物茶店	22.8 × 35.5	竹内孫八・鶴屋喜右衛門	天保4年～6年頃 (1833～35)
30	東海道五拾三次之内 岡部 宇津之山	22.7 × 35.5	鶴屋喜右衛門	天保4年～6年頃 (1833～35)
31	東海道五拾三次之内 藤枝 人馬継立	22.9 × 35.3	竹内孫八・鶴屋喜右衛門	天保4年～6年頃 (1833～35)
32	東海道五拾三次之内 嶋田 大井川駿岸	22.5 × 34.9	竹内孫八	天保4年～6年頃 (1833～35)
33	東海道五拾三次之内 金谷 大井川遠岸	22.7 × 35.2	竹内孫八	天保4年～6年頃 (1833～35)
34	東海道五拾三次之内 日坂 佐夜ノ中山	22.9 × 35.5	竹内孫八・鶴屋喜右衛門	天保4年～6年頃 (1833～35)
35	東海道五拾三次之内 掛川 秋葉山遠望	22.7 × 35.5	竹内孫八	天保4年～6年頃 (1833～35)
36	東海道五拾三次之内 袋井 出茶屋ノ図	22.5 × 35.5	竹内孫八・鶴屋喜右衛門	天保4年～6年頃 (1833～35)
37	東海道五拾三次之内 見附 天竜川図	22.7 × 35.4	竹内孫八	天保4年～6年頃 (1833～35)
38	東海道五拾三次之内 浜松 冬枯ノ図	22.7 × 35.4	竹内孫八	天保4年～6年頃 (1833～35)
39	東海道五拾三次之内 舞坂 今切真景	22.5 × 35.6	竹内孫八	天保4年～6年頃 (1833～35)

No.	作品名	本紙寸法 (cm)	版元※	刊行年
40	東海道五拾三次之内 荒井 渡舟ノ図	22.7 × 35.7	竹内孫八	天保4年～6年頃 (1833～35)
41	東海道五拾三次之内 白須賀 汐見阪図	22.9 × 35.7	竹内孫八	天保4年～6年頃 (1833～35)
42	東海道五拾三次之内 二川 猿ヶ馬場	22.6 × 35.7	竹内孫八	天保4年～6年頃 (1833～35)
43	東海道五拾三次之内 吉田 豊川橋	22.9 × 35.9	竹内孫八	天保4年～6年頃 (1833～35)
44	東海道五拾三次之内 御油 旅人留女	22.9 × 35.4	竹内孫八	天保4年～6年頃 (1833～35)
45	東海道五拾三次之内 赤阪 旅舎招婦ノ図	22.9 × 35.2	竹内孫八	天保4年～6年頃 (1833～35)
46	東海道五拾三次之内 藤川 棒鼻ノ図	22.9 × 35.7	竹内孫八	天保4年～6年頃 (1833～35)
47	東海道五拾三次之内 岡崎 矢矧ノ図	23.0 × 35.4	竹内孫八	天保4年～6年頃 (1833～35)
48	東海道五拾三次之内 池鯉鮒 首夏馬市	22.7 × 35.0	竹内孫八	天保4年～6年頃 (1833～35)
49	東海道五拾三次之内 鳴海 名物有松絞	22.5 × 35.2	竹内孫八	天保4年～6年頃 (1833～35)
50	東海道五拾三次之内 宮 熱田神事	22.6 × 35.1	竹内孫八	天保7年頃 (1836)
51	東海道五拾三次之内 桑名 七里渡口	22.8 × 35.0	竹内孫八	天保7年頃 (1836)
52	東海道五拾三次之内 四日市 三重川	22.6 × 35.0	竹内孫八	天保7年頃 (1836)
53	東海道五拾三次之内 石薬師 石薬師寺	22.5 × 35.0	竹内孫八	天保7年頃 (1836)
54	東海道五拾三次之内 庄野 白雨	22.7 × 35.0	竹内孫八	天保7年頃 (1836)
55	東海道五拾三次之内 亀山 雪晴	22.8 × 35.0	竹内孫八	天保7年頃 (1836)
56	東海道五拾三次之内 関 本陣早立	22.5 × 34.9	竹内孫八	天保7年頃 (1836)
57	東海道五拾三次之内 阪之下 筆捨嶺	22.6 × 35.1	竹内孫八	天保7年頃 (1836)
58	東海道五拾三次之内 土山 春之雨	22.6 × 35.0	竹内孫八	天保7年頃 (1836)
59	東海道五拾三次之内 水口 名物干瓢	22.3 × 35.1	竹内孫八	天保7年頃 (1836)
60	東海道五拾三次之内 石部 目川ノ里	22.0 × 35.0	竹内孫八	天保7年頃 (1836)
61	東海道五拾三次之内 草津 名物立場	22.0 × 35.3	竹内孫八	天保7年頃 (1836)
62	東海道五拾三次之内 大津 走井茶店	22.6 × 35.2	竹内孫八	天保7年頃 (1836)
63	東海道五拾三次之内 京師 三條大橋	22.5 × 35.2	竹内孫八	天保7年頃 (1836)

すべて個人蔵、大判錦絵。

※竹内孫八＝保永堂、鶴屋喜右衛門＝仙（僊）鶴堂

企画展 2015 一宮市現代作家美術秀選展

会期 平成 27 年 11 月 28 日 (土) ~ 12 月 13 日 (日)
 会場 特別展示室・講座室・ラウンジ・ギャラリー・展示室 4
 印刷物 ポスター B 2 判 700 枚
 リーフレット A 4 判 10,000 枚
 観覧料 常設観覧料
 (一般 200 円、高・大学生 100 円、小・中学生 50 円)
 開館日数 14 日間
 入館者数 2,210 人 (157.8 人/1 日)

第 73 回一宮市美術展、2015 一宮総合美術展の成果等を受けて、
 一宮市美術展依頼出品者・市長賞受賞者・一宮美術作家協会・一宮
 書道協会・一宮写真協会推薦者の作品を展示した。

2015 一宮市現代作家美術秀選展



平成 27 年 11 月 28 日 (土) ~ 12 月 13 日 (日)

開館時間 午前 9 時 30 分 ~ 午後 5 時 (入館は 4 時 30 分まで) ※最終日は午後 4 時 30 分で閉じます

休 息 日 11 月 30 日 (月)・12 月 7 日 (月)

■ 観 覧 料 一般 200 円 (160 円)、高校・大学生 100 円 (80 円)、小・中学生 50 円 (40 円)

【常設展を含む】 ※1 歳未満は無料、2 歳以上 12 歳未満は 100 円、13 歳以上 19 歳未満は 150 円、20 歳以上は 200 円。

※市内各公民館・図書館・公民館等にて、貸出・複製の申請ができます。詳細は各公民館・図書館等に問い合わせください。

■ 制作料の納入 10 月 27 日 (金) ~ 11 月 27 日 (金) の間、一宮市市民生活学習課、一宮市博物館、一宮市三浦野子記念美術館、一宮市尾島歴史民俗資料館にて販売。

■ 主 催 一宮市博物館

■ 協 賛 一宮美術作家協会・一宮書道協会・一宮写真協会

一宮市博物館

〒491-0292 一宮市東町 1-1-1
 電話 0565-22-1111 (受付時間 9:00~17:00)

休 息 日 11 月 30 日 (月)・12 月 7 日 (月)

■ 観 覧 料 一般 200 円 (160 円)、高校・大学生 100 円 (80 円)、小・中学生 50 円 (40 円)

【常設展を含む】 ※1 歳未満は無料、2 歳以上 12 歳未満は 100 円、13 歳以上 19 歳未満は 150 円、20 歳以上は 200 円。

※市内各公民館・図書館・公民館等にて、貸出・複製の申請ができます。詳細は各公民館・図書館等に問い合わせください。

■ 制作料の納入 10 月 27 日 (金) ~ 11 月 27 日 (金) の間、一宮市市民生活学習課、一宮市博物館、一宮市三浦野子記念美術館、一宮市尾島歴史民俗資料館にて販売。

■ 主 催 一宮市博物館

■ 協 賛 一宮美術作家協会・一宮書道協会・一宮写真協会

出品者

日本画

大島奈知子
 河村 明美
 名倉 勝三
 松岡 彩子

洋画

井上 雅夫
 岩田 哲夫
 江村 亨
 大島 辰子
 大島 信人
 大塚 将司
 後藤 泰洋
 櫻井 幹郎
 左合 英明
 すぎもと和
 関野 敦
 高森 和子
 高山 悟
 寺西 洋二
 堀尾 一郎
 増田 和臣
 松本 幹永
 三輪 修
 三輪 清弘
 若月 陽子

書

安藤 蘇道
 伊藤 暁嶺
 伊藤 玄圃
 岩田 澗流
 加藤 松翠
 亀山 雪峰
 川浦 碧涛
 木戸 竹葉
 近藤 芳玉
 佐々 清香
 佐野 桃子
 高木 曾水
 武山 翠屋
 田代 春苑
 富田 栄楽
 中村 曾南
 則武 穹
 林 如華
 林 大樹
 村上 堯紅
 村田 光終
 森 隆城
 山田 杏華

彫刻・立体

川原 孝文
 櫻井 真理
 長谷川厚一郎
 真下 賢一

工芸

足立 重喜
 鶴飼 辰郎
 澤田 進治
 林 節子
 松岡 孝司

デザイン

石井佳代子
 鶴飼のはら
 岡崎 美穂
 森 昭夫

写真

青木 尚子
 安藤 治仁
 伊藤 繁雄
 桜井 悦子
 中村 薫
 橋本 秀子
 林 三平
 夫馬 勲
 武鹿 千代

第 7 回一宮市美術展

市長賞受賞作品

日本画

三矢菜穂子

洋画

磯部 和久
 柘植 雅一
 小澤富美子

彫刻・立体

石川 容子

工芸

川瀬 正二

デザイン

呼元 勇樹

書

酒井 光華
 春日井栄嘉
 長崎 成秀

写真

安藤 義弘

企画展 くらしの中の民具 むらのおまつり

会期 平成 28 年 1 月 9 日 (土) ~ 3 月 13 日 (日)
 主催 一宮市博物館
 会場 特別展示室、小展示室、ラウンジ、1 階ギャラリー
 印刷物 ポスター (B 2) 600 枚
 リーフレット (A 4) 60,000 枚
 展示解説書 (B 5、36 頁) 6,000 部
 観覧券 2,000 枚
 観覧料 常設観覧料
 (一般 200 円、高・大学生 100 円、小・中学生 50 円)

開催日数 55 日間

入館者数 6,638 人 (120.6 人 / 1 日)

社会科単元「古い道具と昔の暮らし」において、博物館を見学する小学校 3 年生を対象に、民具を通して昔の暮らしを紹介する展示会であり、平成 3 年度からの継続事業である。平成 27 年度は「むらのおまつり」をテーマに、道具をつかう機会に注目し、古い道具に対する理解を促すことを目標とした。

展示構成は、① くらしの道具を調べよう、② クイズのこみち いちのみやのおまつり。

くらし体験講座

- ① 「もちつき大会」 日時 平成 28 年 1 月 17 日 参加者 80 人
- ② 「むかしのこどもにへんしん！」 日時 平成 28 年 1 月 24 日 参加者 15 人
- ③ 「本格たこづくり」 日時 平成 28 年 2 月 7 日 参加者 18 人
- ④ 「むかしのおやつ せんばやき」 日時 平成 28 年 2 月 21 日 参加者 59 人

出品目録

1 はいちょう	26 のし板	51 井戸	76 火のし
2 きりだめ	27 のし棒	52 棹釣瓶	77 炭火アイロン
3 薬箱	28 いずみ	53 はんぞ	78 草履作り台
4 柱時計	29 わらぞうり	54 洗濯板	79 くけ台
5 箒	30 下駄	55 鹽 (たらい)	80 あんか
6 蠅叩き	31 高下駄	56 しんどかご (4 点)	81 猫火鉢
7 おひつ	32 せいろ	57 鳥籠	82 湯たんぼ
8 シャもじ	33 寿司箱	58 風呂桶	83 石油ランプ
9 米櫃	34 汁桶	59 風呂籠	84 がんどう (木製桶型)
10 時刻表	35 いかき	60 横槌	85 がんどう (金属製)
11 岡持ち	36 ざる	61 伸子針	86 仕事着
12 唐傘	37 鯉節削り	62 張板	87 長着
13 行李	38 ごま炒り	63 釜	88 凧
14 一斗枵	39 豆炒り	64 菜箸	89 羽子板
15 斗かき	40 酒徳利	65 鍋	90 ぐいち (お手玉)
16 飯籠	41 弁当箱	66 鍋つかみ	91 手毬
17 火鉢	42 甕	67 荒神箒	92 双六
18 炭取箱	43 氷冷蔵庫	68 火掻き棒	93 百人一首
19 火箸	44 手桶	69 十能	94 かるた
20 卓袱台	45 石臼	70 炭俵	95 しょうや (めんこ)
21 箱膳	46 臼台	71 七輪	
22 茶碗	47 たわし	72 早鍋	
23 汁碗	48 まな板	73 火消し壺	
24 箸	49 水漉甕 (はんどかめ)	74 火ふき竹	
25 箸立て	50 柄杓	75 こて	

すべて一宮市博物館蔵



平成 28 年度

企画展 尾張洋画入門

会期 平成 28 年 5 月 21 日（土）～ 6 月 26 日（日）

主催 一宮市博物館

会場 特別展示室、講座室、ラウンジ

印刷物 ポスター（B 2） 850 枚

リーフレット（A 4） 60,000 枚

展示解説書（A 4、40 頁） 4,000 部

招待券 2,000 枚

観覧料 常設観覧料（一般 200 円、高・大学生 100 円、
小・中学生 50 円）

開催日数 32 日間

入館者数 2,280 人（71.2 人／1 日）

一宮市博物館に寄贈された作品を中心に、近隣の個人蔵の作品、一宮市三岸節子記念美術館の所蔵品も加え、伊藤廉（1898 - 1983）、鶴城繁（1899 - 1985）、大澤海蔵（1906 - 71）、荻須高德（1901 - 86）、鬼頭鍋三郎（1899 - 1982）、佐分眞（1898 - 1936）、藤井外喜雄（1901 - 94）、宮脇晴（1901 - 85）、森馨之助（1898 - 1956）、横井礼以（1886 - 1980）など尾張地域ゆかりの画家の作品を展示し、当地域における洋画の展開を紹介した。

展示構成

- ① 愛美社の画家たち
- ② 孤高の画家 藤井外喜雄
- ③ 尾張ゆかりの画家たち

関連催事

講演会

「愛知の洋画壇」

講師 中山 真一（株式会社名古屋画廊代表取締役）

日時 平成 28 年 6 月 25 日（土）午後 2 時～ 3 時 30 分

会場 博物館映像コーナー

聴講者 30 人

展示解説

日時 ① 5 月 29 日（日） ② 6 月 12 日（日） 各回午後 2 時～

参加者 ① 27 人 ② 29 人



新緑の季節、博物館でアートにふれるひとときを。

伊藤廉
鶴城繁
大澤海蔵
大澤純一郎
荻須高德
寛忠治
北川民次
鬼頭鍋三郎
小磯良平
佐分眞
杉本健吉
藤井外喜雄
三岸節子
宮脇晴
森馨之助
横井礼以

●常設観覧料（本館常設展示） 市内の小・中学生と満 65 歳以上の方は観覧無料

観覧料	一般	小・中学生	65 歳以上
常設展示	200 円	100 円	50 円
特別展示	200 円	100 円	50 円

2016
5/21-6/26
[土] [日]

開館時間：午前 9 時 30 分～午後 5 時
（入館は 4 時 30 分まで）
休 館 日：館内月曜日

一宮市博物館
ICHINOMIYA CITY MUSEUM

出品目録

① 愛美社の画家たち

No.	作者	作品名	制作年	材質・技法	サイズ (cm)	所蔵
1	大澤鉦一郎	子供		油彩／画布	33.2 × 24.2	一宮市博物館
2	大澤鉦一郎	あじさいの花		油彩／板	34.7 × 26.6	一宮市博物館
3	大澤鉦一郎	夏		油彩／板	24.0 × 33.0	一宮市博物館
4	大澤鉦一郎	リンゴと柿		油彩／画布	21.8 × 27.1	一宮市博物館
5	宮脇晴	赤のあやつり	1966 (昭和 41 年)	油彩／画布	100.0 × 81.0	一宮市博物館
6	宮脇晴	ミルクを飲む幼児	1953 (昭和 28 年)	油彩／画布	53.2 × 72.5	一宮市博物館
7	宮脇晴	ポニーの少女	1961 (昭和 36 年)	油彩／板	27.1 × 21.5	一宮市博物館
8	宮脇晴	奥能登宇出津港	1968 (昭和 43 年)	油彩／板	21.9 × 27.2	一宮市博物館
9	宮脇晴	爛瓶のひなげし	1972 (昭和 47 年)	油彩／板	33.2 × 23.7	一宮市博物館
10	宮脇晴	風邪をひいた自画像	1982 (昭和 57 年)	油彩／画布	65.3 × 50.1	一宮市博物館
11	森馨之助	自画像		水彩／紙	21.0 × 16.0	一宮市博物館
12	森馨之助	K 子像		水彩、鉛筆／紙	26.2 × 16.0	一宮市博物館
13	藤井外喜雄	永薫肖像画		油彩／画布	32.5 × 23.7	一宮市博物館
14	藤井外喜雄	孫 (永薫)、成人式の肖像画		油彩／画布	53.4 × 45.3	一宮市博物館
15	藤井外喜雄	[二人の子供]		油彩／画布	31.5 × 40.8	一宮市博物館
16	藤井外喜雄	ピアノ弾く恩案		油彩／画布	24.0 × 33.0	一宮市博物館
17	藤井外喜雄	[風景]		油彩／画布	36.8 × 44.4	一宮市博物館
18	藤井外喜雄	[風景]		油彩／画布	45.6 × 52.9	一宮市博物館
19	藤井外喜雄	袋田の滝		油彩／画布	52.8 × 45.4	一宮市博物館
20	藤井外喜雄	水上スキー場		油彩／画布	45.6 × 53.0	一宮市博物館
21	藤井外喜雄	出雲大社		油彩／画布	45.7 × 53.1	一宮市博物館
22	大澤鉦一郎	婦人像 (リボン)		水彩／紙	37.0 × 28.0	一宮市博物館
23	大澤鉦一郎	横顔		鉛筆、コンテ／紙	37.6 × 26.4	一宮市博物館
24	大澤鉦一郎	肘をつく		コンテ／紙	36.4 × 25.7	一宮市博物館
25	大澤鉦一郎	帽子の少女		色鉛筆／紙	35.8 × 25.0	一宮市博物館
26	大澤鉦一郎	三つ編の少女		鉛筆／紙	33.0 × 25.0	一宮市博物館
27	大澤鉦一郎	桃枝付「みるる」		コンテ／紙	26.8 × 37.8	一宮市博物館
28	大澤鉦一郎	はたおり		鉛筆／紙	24.7 × 25.6	一宮市博物館
29	大澤鉦一郎	裸婦		コンテ／紙	25.6 × 17.7	一宮市博物館
30	大澤鉦一郎	もゝ四ヶ		鉛筆、色鉛筆／紙	21.0 × 26.4	一宮市博物館
31	大澤鉦一郎	リンゴ		鉛筆／紙	26.3 × 21.2	一宮市博物館
32	大澤鉦一郎	ザクロ		ペン／紙	11.4 × 10.2	一宮市博物館
33	大澤鉦一郎	花二題		ペン、鉛筆／紙	10.5 × 13.0、 19.2 × 12.2	一宮市博物館
34	大澤鉦一郎	魚		コンテ／紙	21.5 × 31.2	一宮市博物館
35	大澤鉦一郎	浜風景		コンテ／紙	18.8 × 24.8	一宮市博物館
36	宮脇晴	クロッキー		コンテ／紙	39.0 × 27.0	一宮市博物館
37	宮脇晴	クロッキー	1957 (昭和 32 年)	コンテ／紙	39.2 × 27.0	一宮市博物館
38	宮脇晴	クロッキー	1958 (昭和 33 年)	コンテ／紙	38.0 × 26.8	一宮市博物館
39	宮脇晴	クロッキー		コンテ／紙	35.9 × 25.3	一宮市博物館
40	宮脇晴	クロッキー	1979 (昭和 54 年)	コンテ／紙	27.0 × 38.2	一宮市博物館
41	宮脇晴	黒湯		水彩／紙	20.2 × 23.6	一宮市博物館

No.	作者	作品名	制作年	材質・技法	サイズ (cm)	所蔵
42	宮脇晴	山のさち	1976 (昭和 51 年)	水彩／紙	31.5 × 40.7	一宮市博物館
43	宮脇晴	とへの蛙		水彩／紙	27.0 × 24.0	一宮市博物館
44	宮脇晴	高蔵寺玉野川	1918 (大正 7 年)	油彩／板	16.0 × 22.2	一宮市博物館
45	宮脇晴	りんご	1919 (大正 8 年)	油彩／板	16.0 × 22.2	一宮市博物館
46	宮脇晴	巻き貝と花瓶	1923 (大正 12 年)	油彩／カルトン	24.0 × 33.0	一宮市博物館
47	宮脇晴	山への道	1923 (大正 12 年)	油彩／板	23.6 × 33.0	一宮市博物館
48	宮脇晴	八事への道	1925 (大正 14 年)	油彩／板	23.4 × 33.0	一宮市博物館
49	宮脇晴	仔猫葡萄園	1925 (大正 14 年)	油彩／カルトン	24.1 × 32.9	一宮市博物館
50	鶴城繁	[小屋]	1953 (昭和 28 年)	油彩／板	17.3 × 22.7	一宮市博物館
51	鶴城繁	[キャンプ場]	1953 (昭和 28 年)	油彩／板	21.3 × 27.3	一宮市博物館
52	鶴城繁	奈良風景		油彩／板	24.0 × 33.4	一宮市博物館
53	鶴城繁	街の一隅 (上前津町にて)		油彩／板	24.0 × 33.4	一宮市博物館
54	鶴城繁	[噴水のある公園]		油彩／板	15.5 × 22.6	一宮市博物館
55	鶴城繁	白山遠望		油彩／板	24.2 × 33.2	一宮市博物館
56	鶴城繁	白山遠望		油彩／キャンバスボード	24.1 × 33.2	一宮市博物館
57	鶴城繁	[風景]		油彩／板	21.6 × 27.2	一宮市博物館
58	鶴城繁	関原あたり		油彩／キャンバスボード	28.4 × 35.6	一宮市博物館
59	鶴城繁	[柿]		油彩／板	15.7 × 22.7	一宮市博物館

② 孤高の画家 藤井外喜雄

No.	作者	作品名	制作年	材質・技法	サイズ (cm)	所蔵
60	藤井外喜雄	石運び	1983 (昭和 58 年)	油彩／画布	97.0 × 162.0	一宮市博物館
61	藤井外喜雄	開門前のルーブル美術館	1976 (昭和 51 年)	油彩／画布	112.0 × 145.0	一宮市博物館
62	藤井外喜雄	ベナレスの沐浴		油彩／画布	97.0 × 162.0	一宮市博物館
63	藤井外喜雄	佐藤一英 25 歳の肖像	1923 (大正 12 年)	油彩／画布	38.0 × 31.5	個人
64	藤井外喜雄	ベンチに座る女		油彩／画布	32.0 × 40.7	一宮市博物館
65	藤井外喜雄	ジプシーの子供		油彩／画布	41.0 × 31.7	一宮市博物館
66	藤井外喜雄	ニューヨーク		油彩／画布	40.8 × 31.7	一宮市博物館
67	藤井外喜雄	セーナ川より望む		油彩／画布	45.4 × 52.3	一宮市博物館
68	藤井外喜雄	夕映え (ヴェネツィア)	1976 (昭和 51 年)	油彩／画布	91.0 × 116.5	一宮市博物館
69	藤井外喜雄	太陽	1983 (昭和 58 年) 頃	油彩／画布	130.3 × 162.0	一宮市博物館
70	藤井外喜雄	波にたわむれる子 (銚子)	1985 (昭和 60 年)	油彩／画布	145.5 × 145.5	一宮市博物館
71	藤井外喜雄	[街角]		油彩／板	21.7 × 26.6	一宮市博物館
72	藤井外喜雄	[街角]		油彩／キャンバスボード	23.6 × 32.8	一宮市博物館
73	藤井外喜雄	[物売りの女]		油彩／板	32.8 × 23.2	一宮市博物館
74	藤井外喜雄	[床屋]		油彩／板	24.2 × 33.2	一宮市博物館
75	藤井外喜雄	[風景]		板／油彩	23.5 × 32.9	一宮市博物館
76	藤井外喜雄	[風景]		板／油彩	23.4 × 32.9	一宮市博物館
77	藤井外喜雄	[木陰]		板／油彩	23.3 × 32.9	一宮市博物館
78	藤井外喜雄	[午睡]	1932 (昭和 7 年)	板／油彩	24.2 × 33.1	一宮市博物館
79	藤井外喜雄	[少女]		油彩／キャンバスボード	33.6 × 24.3	一宮市博物館
80	藤井外喜雄	[火山]		板／油彩	33.0 × 23.5	一宮市博物館
81	藤井外喜雄	信州杵掛ニテ		板／油彩	23.5 × 33.0	一宮市博物館
82	藤井外喜雄	[風景]		板／油彩	24.5 × 33.3	一宮市博物館

③ 尾張ゆかりの画家たち

No.	作者	作品名	制作年	材質・技法	サイズ (cm)	所蔵
83	杉本健吉	中村風景	1944 (昭和 19 年)	水彩、鉛筆／紙	54.6 × 47.8	一宮市博物館
84	杉本健吉	牡丹	2002 (平成 14 年)	水彩／紙	65.4 × 50.5	一宮市博物館
85	笈忠治	虫眼鏡を持てる老母	1930-1940 (昭和 5-15 年)	油彩／画布	197.0 × 160.5	一宮市博物館
86	笈忠治	帽子をかぶった自画像	1924 (大正 13 年)	コンテ／紙	62.5 × 47.6	一宮市博物館
87	笈忠治	自画像 (絶筆)	2003 (平成 15 年)	鉛筆／紙	35.5 × 25.0	一宮市博物館
88	横井礼以	安藤秋三郎氏肖像		油彩／画布	45.5 × 37.9	一宮市博物館
89	横井礼以	安藤夫人肖像		油彩／画布	45.5 × 37.9	一宮市博物館
90	佐分眞	ブルターニュの女たち	1930 (昭和 5 年)	油彩／画布	130.5 × 162.5	一宮市博物館
91	伊藤廉	A.E. 氏の肖像	1928 (昭和 3 年)	油彩／画布	162.0 × 114.0	一宮市博物館
92	伊藤廉	静物	1935 (昭和 10 年) 頃	油彩／画布	24.0 × 59.2	個人
93	伊藤廉	[静物]		油彩／画布	30.3 × 40.0	個人
94	佐分眞	男の像	1930 (昭和 5 年) 頃	油彩／板	53.0 × 45.3	一宮市博物館
95	佐分眞	婦人像		油彩／板	45.3 × 37.6	一宮市博物館
96	佐分眞	裸婦		油彩／板	45.2 × 37.5	一宮市博物館
97	佐分眞	婦人像	1933 (昭和 8 年) 頃	油彩／板	22.5 × 15.8	一宮市博物館
98	佐分眞	サイゴンの子供		水彩、鉛筆／紙	26.7 × 21.0	一宮市博物館
99	佐分眞	花と果物	1922-1923 (大正 11-12 年) 頃	油彩／画布	59.6 × 71.4	一宮市博物館
100	佐分眞	花	1925 (大正 14 年)	油彩／画布	53.0 × 41.2	一宮市博物館
101	佐分眞	花 (ばら)		油彩／板	33.0 × 23.5	一宮市博物館
102	佐分眞	風景 (パリ近郊)	1927 (昭和 2 年)	油彩／板	37.8 × 45.5	一宮市博物館
103	佐分眞	風景 (水彩)		紙／墨、水彩	42.0 × 49.0	一宮市博物館
104	佐分眞	フランス冬景色		水彩／紙	27.0 × 24.0	一宮市博物館
105	荻須高德	ヴェネツィアの宮殿	1959 (昭和 34 年) 頃	油彩／画布	123.5 × 95.0	一宮市博物館
106	荻須高德	ルールック運河	1957 (昭和 32 年) 頃	油彩／画布	54.0 × 65.0	一宮市三岸節子記念美術館
107	鬼頭鍋三郎	鉄仙花		油彩／画布	40.8 × 31.8	一宮市博物館
108	鬼頭鍋三郎	湖畔 (琵琶湖)		油彩／画布	38.0 × 45.7	一宮市博物館
109	鬼頭鍋三郎	舞妓 (加茂川)	1972 (昭和 47 年)	油彩／画布	51.0 × 44.0	個人
110	鬼頭鍋三郎	白桃とプラム		油彩／画布	45.5 × 60.6	一宮市三岸節子記念美術館
111	大澤海蔵	牧場の女性	1938 (昭和 13 年) 頃	油彩／画布	145.2 × 95.6	一宮市博物館
112	大澤海蔵	松原湖	1931 (昭和 6 年)	油彩／画布	90.3 × 116.2	一宮市博物館
113	大澤海蔵	「さるとりいばら」のある静物	1959 (昭和 34 年)	油彩／画布	116.3 × 100.5	一宮市博物館
114	三岸節子	静物	1942 (昭和 17 年)	油彩／画布	52.7 × 45.0	一宮市三岸節子記念美術館
115	三岸節子	ブルゴーニュの麦畑	1978 (昭和 53 年)	油彩／画布	92.0 × 65.0	一宮市三岸節子記念美術館
116	小磯良平	二人姉妹	1969 (昭和 44 年) 頃	油彩／画布	60.6 × 50.0	個人
117	北川民次	チューリップ	1960 (昭和 35 年)	油彩／画布	45.5 × 33.4	一宮市三岸節子記念美術館
特別出品						
	倉地比沙支	夢想の地		リトエッチング／紙		個人

夏季小展示 土の中のいちのみや

会期 平成28年7月16日(土)～8月21日(日)
 主催 一宮市博物館
 会場 小展示室
 印刷物 展示解説書 A4判 12ページ 4,000部
 観覧料 常設展観覧料(一般200円、高・大学生100円、
 小・中学生50円)

開館日数 31日間

入館者数 4,739人(152.8人/1日)

一宮市域には、人が住み始めた約5000年前の縄文時代の中期以来、今日までたくさんの人々が住み生活を営んでいた。しかし現在の一宮の町並みからはかつてのいちのみやの姿を想像することは難しい。そんな今では忘れ去られてしまった過去の人々の生活を、一宮市内の遺跡で出土した昔の人々の道具から、かつてのいちのみやの姿を紹介した。

展示構成

- ① 縄文時代 ～いちのみやに人が住み始めた時代～
- ② 弥生時代 ～いちのみやの人口が増えた時代～
- ③ 古墳時代 ～大きなお墓がたくさん造られた時代～
- ④ 古代 ～文字が使われるようになった時代～
- ⑤ 中世 ～いちのみやの武士が活躍した時代～
- ⑥ 近世 ～多くの人々が行きかういちのみや～

出品目録

No.	資料名	出土遺跡	数量	所蔵
1	深鉢	佐野遺跡	1	一宮市博物館
2	石錘	佐野遺跡	9	一宮市博物館
3	石錘の使い方模型	-	1	一宮市博物館
4	打製石斧	佐野遺跡	5	一宮市博物館
5	打製石斧の使い方模型	-	2	一宮市博物館
6	磨製石斧	佐野遺跡	2	一宮市博物館
7	磨製石斧の使い方模型	-	1	一宮市博物館
8	深鉢	馬見塚遺跡	3	一宮市博物館
9	浅鉢	馬見塚遺跡	2	一宮市博物館
10	石鍬	馬見塚遺跡	1	一宮市博物館
11	石鍬の使い方模型	-	12	一宮市博物館
12	深鉢	猫島遺跡	1	一宮市博物館
13	甕	猫島遺跡	2	一宮市博物館
14	細頸壺	猫島遺跡	3	一宮市博物館
15	石包丁	猫島遺跡	3	一宮市博物館
16	土製人面	猫島遺跡	1	一宮市博物館
17	土偶	八王子遺跡	3	一宮市博物館
18	高杯	八王子遺跡	3	一宮市博物館
19	壺	八王子遺跡	3	一宮市博物館
20	甕	八王子遺跡	2	一宮市博物館
21	鉢	八王子遺跡	2	一宮市博物館



No.	資料名	出土遺跡	数量	所蔵
22	石杵	八王子遺跡	3	一宮市博物館
23	壺	元屋敷遺跡	7	一宮市博物館
24	器台	元屋敷遺跡	3	一宮市博物館
25	S字甕	元屋敷遺跡	1	一宮市博物館
26	台付甕	元屋敷遺跡	1	一宮市博物館
27	鉢	元屋敷遺跡	1	一宮市博物館
28	手焙形土器	元屋敷遺跡	1	一宮市博物館
29	蓋杯	塩竈神社古墳	1	一宮市博物館
30	蓋杯	人麿塚古墳	1	一宮市博物館
31	高杯	浅井6号墳	1	一宮市博物館
32	高杯	浅井11号墳	1	一宮市博物館
33	高杯	浅井12号墳	1	一宮市博物館
34	高杯	塩竈神社古墳	2	一宮市博物館
35	細頸壺	人麿塚古墳	1	一宮市博物館
36	平瓶	浅井神社古墳	1	一宮市博物館
37	短頸壺	浅井6号墳	1	一宮市博物館
38	廳	浅井神社古墳	1	一宮市博物館
39	廳	浅井6号墳	1	一宮市博物館
40	馬具片	人麿塚古墳	5	一宮市博物館
41	鉄環	人麿塚古墳	1	一宮市博物館
42	耳環	浅井神社古墳	3	一宮市博物館
43	刀	塩竈神社古墳	1	一宮市博物館
44	鞘尻	浅井神社古墳	1	一宮市博物館
45	小札	人麿塚古墳	5	一宮市博物館
46	碗	大毛沖遺跡	9	一宮市博物館
47	盤	大毛沖遺跡	1	一宮市博物館
48	皿	大毛沖遺跡	4	一宮市博物館
49	高杯	大毛沖遺跡	1	一宮市博物館
50	平瓶	大毛沖遺跡	1	一宮市博物館
51	黒色土器片	大毛沖遺跡	1	一宮市博物館
52	碗	大毛池田遺跡	5	一宮市博物館
53	皿	大毛池田遺跡	4	一宮市博物館
54	仏具	大毛池田遺跡	1	一宮市博物館
55	香炉	大毛池田遺跡	1	一宮市博物館
56	白磁	大毛池田遺跡	2	一宮市博物館
57	政治	大毛池田遺跡	5	一宮市博物館
58	土錘	大毛池田遺跡	7	一宮市博物館
59	硬貨	若宮前遺跡	一括	一宮市博物館
60	碗	苺安賀遺跡	7	一宮市博物館
61	皿	苺安賀遺跡	4	一宮市博物館
62	土瓶	苺安賀遺跡	1	一宮市博物館
63	急須	苺安賀遺跡	1	一宮市博物館
64	蓋	苺安賀遺跡	1	一宮市博物館
65	灯明皿	苺安賀遺跡	2	一宮市博物館
66	土鍋	苺安賀遺跡	1	一宮市博物館
67	播鉢	苺安賀遺跡	1	一宮市博物館
68	硬貨	苺安賀遺跡	8	一宮市博物館
69	土人形	苺安賀遺跡	3	一宮市博物館
70	将棋の駒	苺安賀遺跡	2	一宮市博物館

企画展 2016 一宮美術作家協会展

会期 平成 28 年 8 月 27 日 (土) ~ 9 月 11 日 (日)
 会場 特別展示室、講座室、ラウンジ、1 階ギャラリー、小展示室、2 階ギャラリー
 印刷物 リーフレット A 4 判 3,000 枚
 観覧料 常設観覧料 (一般 200 円、高・大学生 100 円、小・中学生 50 円)
 開館日数 14 日間
 入館者数 1,400 人 (100.0 人/1 日)

一宮美術作家協会会員 73 名の作品を展示。今年度から会員小品を 2 階ギャラリーで展示。

出品者

日本画	梶浦 寿布	平林 幸子	工芸
大島奈知子	加藤 伸	平松 幸雄	石田 元子
加島 昌子	鬼頭 厚生	堀尾 一郎	鵜飼 辰郎
河村 明美	木村 満幸	前野 恒	澤田 進治
嶋 千世子	久保田正信	増田 和臣	下田 心一
高橋 弘子	小出きよ子	三輪 修	土屋 保徳
丹羽 桃慶	後藤 一三	三輪 清弘	林 節子
松岡 彩子	後藤 泰洋	村上佳久子	夫馬 信行
	櫻井 幹郎	山崎 澄	松岡 孝司
洋画	左合 英明	山田 久子	
伊藤 眞己	佐藤 典子	山田 光代	デザイン
井上 悟	佐野 義博	山田 孝	石井佳代子
井上 雅夫	すぎもと和	吉川 忠史	市川 章三
岩田 哲夫	関野 敦	吉田まさ子	鵜飼のはら
江村 亨	高森 和子	若月 陽子	岡崎 美穂
大石 晴美	故 高山 悟		百々 佳美
大島 辰子	滝野 弘次	彫塑	森 昭夫
大島 信人	寺西 洋二	川原 孝文	
大塚 将司	富田 信子	長谷川厚一郎	
小笠原千鶴	野原 三義	真下 賢一	
小倉 照江	野村 緑		
小倉 義夫	橋本 進		

企画展 一宮写真協会選抜写真展

会期 平成 28 年 9 月 15 日 (木) ~ 9 月 25 日 (日)
 会場 特別展示室、講座室、ラウンジ
 印刷物 はがき 3,000 枚
 観覧料 常設観覧料 (一般 200 円、高・大学生 100 円、小・中学生 50 円)
 開館日数 9 日間
 入館者数 1,294 人 (143.7 人/1 日)

一宮写真協会会員のうち 36 名の作品を展示。副題は「伝えたい 36 人の 眼差し」。

出品者

青木 尚子	大矢真理子	白沢 博志	林 孝弘
安藤 治仁	岡田 忠夫	杉山 幸夫	林 都美子
安藤 雅彦	尾関 君代	千田 陸末	夫馬 勲
安藤 義弘	笠野 俊彦	田中 誠	古舘 正芳
伊藤 繁雄	加藤 紀子	坪川 ちえ	水谷 嘉男
今井 彰二	木村 龍雄	所 由紀子	武鹿 千代
今枝 吉宗	木村 晴子	中村 薫	(50 音順)
大久保明美	小島 高子	橋本 秀子	
大西 正信	櫻井 悦子	長谷川蕨江	
大矢 勝利	櫻井 慶子	林 三平	

あいちトリエンナーレ 2016 関連行事

モバイル・トリエンナーレ「旅する展覧会」

会期 平成 28 年 9 月 16 日（金）～ 19 日（月・祝）
開催日数 4 日間
会場 博物館 小展示室、回廊、2 階ギャラリーなど
主催 あいちトリエンナーレ実行委員会、一宮市、一宮市教育委員会
観覧料 無料
入場者数 1,451 人（363 人／日）

あいちトリエンナーレ 2016 関連事業として、参加アーティストの本展出品作とは異なる作品の展示やワークショップを実施した。担当者による展示解説や参加アーティストによる解説に熱心に耳を傾ける来館者の姿が多く見受けられ、子どもたちはらくがきのできる MOBIUM や糸を結ぶネット・プロジェクトなど、体験型の作品を楽しんでいた。

出品作家

ジョアン・モデ、高橋士郎、味岡伸太郎、竹川宣彰、佐々木愛、森北伸、大巻伸嗣、伊藤高志、高嶺剛、小川育、山村浩二、ボリス・ラベ、柴田真理子、中村裕太、タロイ・ハヴィニ、ニコラス・ガラニン、ウダム・チャン・グエン、山田亘、LOCUS FABER ツクロッカ、オスカー・ムリーリョ、キオ・グリフィス、二藤建人、今村文、田島秀彦、岡部昌生

関連催事

作品ガイドツアー

板垣美香氏（あいちトリエンナーレ実行委員会事務局コーディネーター）が展示作品の見どころを分かりやすく解説した。

日時 9 月 17 日（土）・19 日（月・祝） ①午前 11 時～ ②午後 3 時～
会場 博物館 各展示室など
参加費 無料
参加者 9 月 17 日（土） ① 38 人 ② 30 人
9 月 19 日（月・祝） ① 25 人 ② 56 人

LOCUS FABER ツクロッカ

「移動型バスミュージアム MOBIUM：バスを万華鏡にする」

揺れると動くミラーのついた飾り（モビール）を作ってバスの内部を巨大な万華鏡にするワークショップを行った後、バスに乗ってまちを巡り、作品を体感した。

日時 9 月 18 日（日） ①午前 10 時～午前 12 時 ②午後 2 時～午後 4 時
バスの走行時間 午後 11 時 30 分～午前 12 時、午後 3 時 30 分～午後 4 時
（ワークショップに参加していない人も乗車可能）
会場 博物館 たいけんの森
参加費 無料
参加者 ① 20 人 ② 20 人

LOCUS FABER ツクロッカ「らくがきバス」

来場者に、黒板になっているバスの外装に、チョークで絵を描いてもらった。

日時 9 月 18 日（日） 午前 9 時～午後 5 時（バスの走行時間以外）
会場 博物館 南側玄関前
参加料 無料

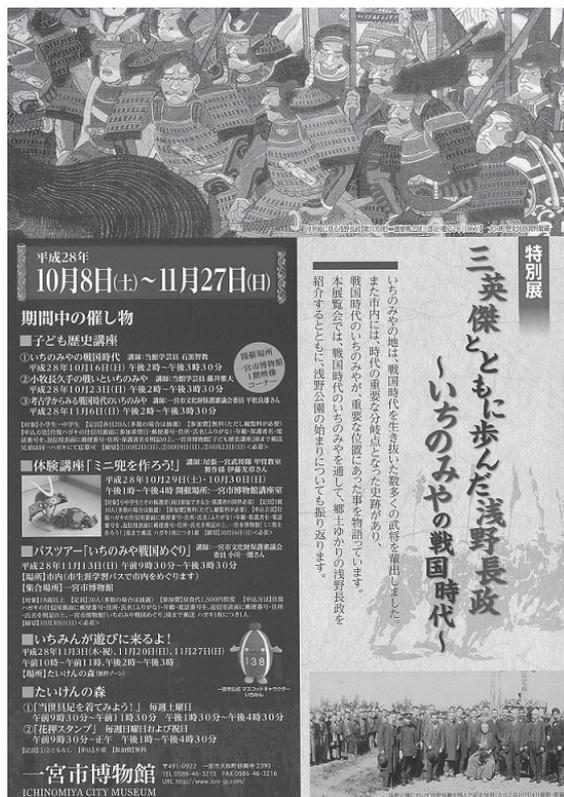
モバイル・トリエンナーレ出品作品リスト

No.	作家名	作品名	制作年	素材・技法
1	味岡伸太郎	設楽からの地質調査報告書 16	2016	水彩紙、土
2	味岡伸太郎	一宮からの地質調査報告書 16	2016	水彩紙、土
3	味岡伸太郎	大府からの地質調査報告書 16	2016	水彩紙、土
4	味岡伸太郎	安城・藤井からの地質調査報告書 16	2016	水彩紙、土
5	ニコラス・ガラニン	Tsu Héidei Shugaxtutaan I,II (しまわっていた英知の箱を、再び開けよう)	2006	ビデオ (4分 37 秒 / 4分 06 秒)
6	キオ・グリフィス	Any Colour You Like 1, 2	2016	木、フェルト
7	タロイ・ハヴィニ	カプカブ I,II,III,IV : メラネシアの神秘的な島々より	2015	磁器、_器、銅ラスタース彩、金彩
8	今村文	無題	2008	エンカウスティック、漆喰、パネル
9	今村文	無題	2016	エンカウスティック、漆喰、パネル
10	今村文	無題	2016	エンカウスティック、漆喰、パネル
11	今村文	無題	2016	エンカウスティック、漆喰、パネル
12	今村文	無題	2016	エンカウスティック、漆喰、パネル
13	今村文	無題	2016	水彩、コラージュ
14	ジョアン・モデ	ネットプロジェクト	2003-	ミクストメディア / インスタレーション
15	森北伸	The Voyager	2014	陶、アルミ、アクリル
16	森北伸	mother	2014	アクリル、綿布
17	オスカー・ムリーリョ	フリークエンシーズ・プロジェクト	2014-16	ミクストメディア
18	中村裕太	世界陶片地図 シドニー	2016	陶片、絵葉書
19	ウダム・チャン・グエン	機械騎兵隊のワルツ The Machine Equestrians #12	2012	シングルチャンネル・カラービデオ (4分 34 秒)
20	二藤建人	ZOKINMAN	2016	雑巾、ビデオ (15分 03 秒)
21	大巻伸嗣	Echoes - Infinity	2013	キャンバス、顔料、アルミニウムプレート
22	岡部昌生	Creative Caravan	2015-2016	エアログラム
23	佐々木愛	塩の道	2016	油彩、キャンバス
24	佐々木愛	海と空	2016	油彩、キャンバス
25	佐々木愛	石器	2016	油彩、キャンバス
26	佐々木愛	古代のルート	2016	油彩、キャンバス
27	佐々木愛	森を運ぶ	2016	油彩、キャンバス
28	柴田真理子	華の静物 005-5	2005	陶
29	柴田真理子	華の静物 007-4	2007	陶
30	柴田真理子	華の静物 009-1	2009	陶
31	柴田真理子	華の静物 009-3	2009	陶
32	田島秀彦	splash(16-01)	2016	MDF パネル、アクリル、光ファイバー、 モーター、LED 電球
33	田島秀彦	splash(09-01)	2009	MDF パネル、アクリル、光ファイバー、 モーター、蛍光灯
34	田島秀彦	浴槽とバスタブと日蝕	2012	MDF パネル、アクリル、光ファイバー、 モーター、蛍光灯
35	高橋士郎	babot m273	2016	空気膜造形
36	竹川宣彰	セミの羽化と私 - 3250 年 #3	2008	油彩、キャンバス
37	山田亘	大愛知なるへそ新聞プロジェクト	2016	新聞 (更紙、油性インク)
38	高嶺剛	サシグワ	1973	ビデオ (15 分)
39	伊藤高志	悪魔の回路図	1988	ビデオ (7 分)
40	山村浩二	頭山	2002	ビデオ (10 分)
41	ボリス・ラベ	Kyrielle	2011	ビデオ (10 分)
42	小川育	I Wanna Be Your Friend	2015	ビデオ (4 分)

特別展 三英傑とともに歩んだ浅野長政～いちのみやの戦国時代～

会期 平成28年10月8日(土)～11月27日(日)
 主催 一宮市博物館
 会場 特別展示室、ラウンジ、1階ギャラリー
 印刷物 ポスター(B2) 850枚
 リーフレット(A4) 60,000枚
 展示解説書 16頁 4,000部
 観覧券(4種) 8,200枚
 招待状 600部
 観覧料 一般500円、高・大学生300円、小・中学生200円
 開館日数 42日間
 入館者数 2,821人(67.1人/1日)

いちのみやの地は、戦国時代を生き抜いた数多の武将を輩出した。その中の一人に、いちのみやゆかりの武将、浅野長政がいる。宮後城(現在の江南市)の城主安井重継の子として生まれた長政は、浅野村(現、浅野公園付近)に住んでいた浅野長勝の養子となり、信長、秀吉、家康に仕えた。そして、大正6年、長勝・長政の邸宅跡地に整備された浅野公園は、来る平成29年には開園100周年を迎えた。また一宮市内には、時代の重要な分岐点となった史跡があり、戦国期のいちのみやが、重要な位置にあった事を物語っている。本展示では、いちのみやの戦国期をとおして、郷土ゆかりの浅野長政を紹介するとともに、浅野公園の始まりについても紹介した。



展示構成

- ① いちのみやの戦国時代
- ② 戦国時代の日本列島を記録した地図
- ③ 戦国時代の人々の暮らし
- ④ 妙興寺文書で見る戦国時代
- ⑤ 室町幕府による尾張支配
- ⑥ 群雄割拠する尾張野
- ⑦ 描かれた浅野長政
- ⑧ 浅野公園

関連催事

「子ども歴史講座」

場所 博物館映像コーナー 対象 小学生

① 「いちのみやの戦国時代」

講師 藤井 雅大(当館学芸員)
 日時 10月16日(日) 午後2時～3時30分
 参加者 14人

② 「小牧長久手の戦いといちのみや」

講師 藤井 雅大(当館学芸員)
 日時 10月23日(日) 午後2時～3時30分
 参加者 12人

③ 「考古学からみる戦国時代のいちのみや」

講師 平松 良雄(一宮市文化財保護審議会委員)

日時 11月6日(日)午後2時～3時30分

参加者 4人

「ミニ兜を作ろう！」

講師 伊藤 光章(尾張一宮武将隊 甲冑教室 製作係)

日時 ①10月29日(土) ②10月30日(日) ともに午後1時～4時

会場 博物館講座室

対象 小中学生とその保護者(両日参加できる方)

参加者 ①4組(子ども5人、保護者4人) ②5組(子ども6人、保護者5人)

バスツアー「いちのみや戦国めぐり」

講師 小川 一郎(一宮市文化財保護審議会委員)

日時 平成28年11月13日(日)午前9時30分～3時30分

参加費 昼食代1,500円程度

参加者 34人

「いちみんな遊びに来るよ！」

日時 平成28年11月3日(木、祝)、11月20日(日)、11月27日(日)

いずれも午前10時～11時、午後2時～3時

会場 博物館たいけんの森

No.	資料名	員数	撮影・作成年月日等	所蔵
1	戦国時代の城館・遺跡マップ ※パネル	1		
2	アジア図 紙本印刷彩色(銅版手彩色)	1	アブラハム・オリテリウス 1570年	愛知学院大学図書館情報センター
3	日本図 紙本印刷彩色(銅版手彩色)	1	ルイス・ティセラ 1595年	愛知学院大学図書館情報センター
4	八王子遺跡出土遺物	6		一宮市博物館
5	大毛池田遺跡出土遺物	7		一宮市博物館
6	田所遺跡出土遺物	12		一宮市博物館
7	荻安賀遺跡出土遺物	9		一宮市博物館
8	常滑焼壺・甕	5	15～16世紀	一宮市博物館
9	米俵 ※レプリカ	3		一宮市博物館
10	法圓寺中世墓遺跡 五輪塔及び宝篋印塔	7		一宮市博物館
11	浅野長政略年表	1		
12	浅野長政関連家系図	1		
13	浅野家略系図	1		
14	重要文化財 管領細川勝元施行状	1	長禄3年(1459)4月11日	妙興寺
15	重要文化財 尾張守護斯波松王丸遵行状	1	長禄4年(1460)2月4日	妙興寺
16	重要文化財 織田敏広書状	1	文明5年(1473)6月11日	妙興寺
17	重要文化財 織田敏定判物	1	文明16年(1484)11月6日	妙興寺
18	重要文化財 足利義教像	1	室町時代(15世紀)	妙興寺
19	重要文化財 尾張守護斯波義重書下 ※写真パネル	1	応永15年(1408)9月27日	妙興寺
20	重要文化財 尾張守護代織田常松遵業行状 ※写真パネル	1	応永15年(1408)9月28日	妙興寺
21	重要文化財 尾張守護代織田常松書状 ※写真パネル	1	応永18年(1411)2月19日	妙興寺

No.	資料名	員数	撮影・作成年月日等	所蔵
22	重要文化財 織田氏奉行等連署判物 ※写真パネル	1	永正13年(1516)12月1日	妙興寺
23	重要文化財 織田達広書状	1	(年未詳)9月20日	妙興寺
24	重要文化財 織田広実書状	1	(年未詳)8月21日	妙興寺
25	重要文化財 竹田晴信印判状	1	(永禄12年・1569)3月10日	妙興寺
26	復元模型 紫白糸威仁王胴具足	1	平成26年(2014)制作	館蔵
27	一宮市指定文化財 紫白糸威仁王胴具足	1	天正・慶長年間(1573～1615)	一宮市木曾川資料館
28	茶糸威桶側五枚胴具足(伝浅野長政所用) ※写真パネル	1		大阪城天守閣
29	浅野長政画像 ※写真パネル	1	模写年代不明	東京大学史料編纂所
30	浅野長政室(長生院)画像 ※写真パネル	1	明治37年(1904)写	東京大学史料編纂所
31	浅野幸長書状 吉村橘左衛門宛	1	慶長3年(1598)11月24日	大阪城天守閣
32	浅野幸長状 藤堂高虎宛	1	慶長15年(1610)9月15日	大阪城天守閣
33	紙本著色 山崎合戦図屏風 左隻 六曲一双のうち	1	江戸時代後期(19世紀)	大阪城天守閣
34	太平記 稲葉山之城陥落千生瓢箪由来之図 月岡芳年 大判錦絵三枚続	1	元治元年(1864)	大口町歴史民俗資料館
35	豊臣勤功記内宮島大合戦図 歌川芳虎 大判錦絵三枚続	1	慶応元年(1865)	個人
36	小牧山両将軍合戦之図 歌川芳虎 大判錦絵三枚続	1	明治6年(1873)	個人
37	二雄槍戦之図 歌川芳虎 大判錦絵三枚続	1	慶応2年(1866)	大口町歴史民俗資料館
38	真柴久吉武智主従之首実検之図 歌川芳虎 大判錦絵三枚続 ※写真パネル	1	慶応2年(1866)	古美術もりみや
39	太平記英勇伝 朝野弥兵衛永政 歌川芳虎 中判錦絵 ※写真パネル	1	慶応3年(1867)	古美術もりみや
40	新撰太閤記 朝鮮征伐評定図 歌川豊宣 大判錦絵二枚続	1	明治16年(1883)	個人
41	絵本太閤記 竹内確斎(作)・岡田玉山(挿絵)	7編 48冊	寛政9年(1797) ～享和2年(1802)刊	一宮市立中央図書館
42	浅野長政公傳 浅野忠純著	1	明治43年(1910)刊	一宮市立中央図書館
43	浅野長政公傳 手島益雄著	1	大正9年(1920)刊	一宮市立中央図書館
44	浅野長政公お伽噺 覆面文士著	1	大正6年(1917)刊	一宮市立中央図書館
45	浅野長政公 丹羽郡西成第四尋常小学校発行	1	大正15年(1926)刊	一宮市立中央図書館
46	一宮市指定文化財 刀銘 備州長船則光	1	室町時代中期(15世紀)	若栗神社八幡宮・一宮市博物館寄託
47	一宮市指定文化財 刀銘 無銘(伝肥後延寿)	1	室町時代中期(15世紀)	若栗神社八幡宮・一宮市博物館寄託
48	一宮市指定文化財 兼松正吉画像 徹源祖侃賛 紙本著色	1	江戸時代前期(17世紀)	若栗神社八幡宮・一宮市博物館寄託
49	朱塗椀・高杯	1	年代不詳	若栗神社八幡宮・一宮市博物館寄託
50	愛知県指定文化財 鍍金銅製釣灯籠	1	室町時代末 ～安土桃山時代(16世紀)	中島宮・一宮市博物館寄託
51	愛知県指定文化財 豊太閤画像 南化玄興賛 紙本著色	1	安土桃山時代(16世紀)	妙興寺
52	東照権現像 絹本濃彩	1	江戸時代前期(17世紀)	長圓寺・西尾市岩瀬文庫寄託
53	重要文化財 織田信長禁制写	1	永禄6年(1563)4月17日	妙興寺
54	一宮市指定文化財 草花図屏風 紙本著色	1	室町時代(15世紀)	妙興寺
55	浅野史蹟顕彰会と浅野公園略年表 ※パネル	1		
56	森徳一郎 ※写真パネル	1		一宮市博物館

No.	資料名	員数	撮影・作成年月日等	所蔵
57	浅野長勳 ※写真パネル	1		一宮市博物館
58	浅野長政公宅址標柱と一本杉 ※写真パネル	1	大正2年9月21日撮影	一宮市博物館
59	浅野長政公宅址標柱前にて ※写真パネル	1	大正2年10月24日撮影	一宮市博物館
60	植樹中の浅野公園 ※写真パネル	1	大正5年冬撮影	一宮市博物館
61	浅野公園開園式・記念碑除幕式 ※写真パネル	1	大正6年4月25日撮影	一宮市博物館
62	浅野長政公宅址記念碑前にて ※写真パネル	1	大正6年4月25日撮影	一宮市博物館
63	建築中の有終堂 ※写真パネル	1	大正12年4月頃撮影	一宮市博物館
64	完成した有終堂 ※写真パネル	1	大正13年11月頃撮影	一宮市博物館
65	浅野長勳筆「有終堂」 ※写真パネル	1	大正13年11月頃撮影	一宮市博物館
66	有終堂竣工式 ※写真パネル	1	大正13年11月16日撮影	一宮市博物館
67	浅野史蹟顕彰私記 全	1	昭和6年	一宮市立中央図書館
68	浅野侯爵家御下附史料 全	1	大正元年～大正4年	一宮市立中央図書館
69	愛知県丹羽郡誌	1	大正6年	一宮市博物館
70	浅野荘と浅野氏	1	大正6年	一宮市立中央図書館
71	浅野史蹟顕彰会印鑑類	8	大正6年	一宮市博物館
72	浅野村地籍字分布図 八剣	1	明治21年	一宮市博物館
73	愛知之自治 第3編第5号	1	大正6年	一宮市立中央図書館
74	浅野長政宅跡平面図	1	大正6年	一宮市立中央図書館
75	産業と観光の一宮市とその附近	1	昭和9年	一宮市博物館
76	名鉄電車（西部線）沿線御案内	1	昭和10年	一宮市博物館
77	浅野史蹟案内	1	昭和時代	一宮市博物館
78	有終堂平面図（『往復書類留』）	1	大正11年	一宮市立中央図書館
79	浅野長政公宅址記念祭の歌	1	昭和7年	一宮市立中央図書館
80	財団設立御許可申請書	3	昭和14年	一宮市立中央図書館
81	浅野史蹟輯録	1	昭和16年	一宮市博物館
82	浅野の史蹟	1	昭和46年	一宮市博物館
83	浅野盆踊り唄	1	昭和26年	一宮市立中央図書館
84	絵葉書（浅野史蹟顕彰会発行）	3	大正時代	一宮市博物館
85	浅野史蹟の栞	1	昭和時代	一宮市立中央図書館
86	史蹟浅野公園巡り	1	昭和28年	一宮市立中央図書館
87	第2回つつじ祭り関連資料	1	昭和54年	一宮市博物館

企画展 2016 一宮市現代作家美術秀選展

会期 平成 28 年 12 月 3 日 (土) ~ 12 月 18 日 (日)
 会場 特別展示室、講座室、ラウンジ、1 階ギャラリー、
 小展示室
 印刷物 ポスター B 2 判 700 枚
 リーフレット A 4 判 10,000 枚
 観覧料 常設観覧料
 (一般 200 円、高・大学生 100 円、小・中学生 50 円)
 開館日数 14 日間
 入館者数 1,636 人 (116.8 人 / 1 日)

第 74 回一宮市美術展、2016 一宮総合美術展の成果等を受けて、
 一宮市美術展依頼出品者・市長賞受賞者、一宮美術作家協会・一宮
 書道協会・一宮写真協会推薦者の作品を展示した。



出品者

日本画

大島奈知子
 河村 明美
 名倉 勝三
 松岡 彩子

洋画

井上 雅夫
 岩田 哲夫
 江村 亨
 大島 辰子
 大島 信人
 大塚 将司
 梶浦 寿布
 後藤 泰洋
 櫻井 幹郎
 左合 英明
 すぎもと和
 関野 敦
 高森 和子
 寺西 洋二
 堀尾 一郎
 増田 和臣
 松本 幹永
 三輪 修
 三輪 清弘
 若月 陽子

彫刻・立体

川原 孝文
 櫻井 真理
 庄司 達
 長谷川厚一郎
 真下 賢一

工芸

足立 重喜
 鶴飼 辰郎
 澤田 進治
 鈴木 良子
 林 節子
 松岡 孝司

デザイン

石井佳代子
 鶴飼のはら
 岡崎 美穂
 森 昭夫

書

安藤 蘇道
 伊藤 暁嶺
 伊藤 玄圃
 岩田 潤流
 加藤 松翠
 亀山 雪峰
 川浦 碧涛
 木戸 竹葉
 小島 瑞月
 近藤 芳玉
 佐々 清香
 武山 翠屋
 田代 春苑
 富田 栄榮
 中村 曾南
 則武 穹
 林 如華
 林 大樹
 村上 史麗
 村田 光柊
 森 隆城
 山田 杏華
 鷺野 紫篁

写真

青木 尚子
 安藤 治仁
 伊藤 繁雄
 桜井 悦子
 中村 薫
 橋本 秀子
 林 三平
 夫馬 勲
 武鹿 千代

第 7 回一宮市美術展

市長賞受賞作品

日本画

高木 俊一

洋画

竹本 昭子
 真野 純子
 菅木 龍平

彫刻・立体

森 孝行

工芸

入江 順子

デザイン

梅田 春佳

(2) 一宮市木曾川資料館

展覧会・催し物

平成 27 年度

平成 27 年 5 月 8 日 (火) ~ 5 月 31 日 (火)	神谷英男拓本展 (前期)
平成 27 年 6 月 2 日 (火) ~ 6 月 30 日 (火)	神谷英男拓本展 (後期)
平成 27 年 7 月 3 日 (金) ~ 7 月 31 日 (金)	写真で魅せる二宮金次郎像 (前期: 一宮市立小学校の金次郎像)
平成 27 年 8 月 4 日 (火) ~ 8 月 30 日 (日)	写真で魅せる二宮金次郎像 (後期: 近隣市町小学校の金次郎像)
平成 27 年 7 月 20 日 (木) ~ 8 月 31 日 (月)	壁画作品『アートドッグズ 138』バトンプロジェクト展示
平成 27 年 9 月 5 日 (土) ~ 10 月 31 日 (土)	二つの一豊兜、<見て、触って、かぶって>違いを体感しよう。
平成 27 年 11 月 3 日 (火) ~ 11 月 29 日 (日)	S Pレコードの衣装 レコードジャケットの世界 (前期: コロンビア・テイチク・ポリドール)
平成 27 年 12 月 1 日 (火) ~ 12 月 26 日 (土)	S Pレコードの衣装 レコードジャケットの世界 (後期: ビクター・キング・タイハイ/マーキュリー)
平成 28 年 3 月 3 日 (木) ~ 3 月 27 日 (日)	拓本展イロイロ パート I 松井まこと
平成 28 年 4 月 5 日 (火) ~ 5 月 7 日 (土)	拓本展イロイロ パート II 松井まこと

平成 28 年度

平成 28 年 5 月 8 日 (木) ~ 5 月 30 日 (金)	S Pレコードでたどる 懐かし映画主題歌 「東京行進曲」から「風速 40 米」まで (前期: 戦前戦中篇)
平成 28 年 6 月 1 日 (水) ~ 6 月 30 日 (木)	S Pレコードでたどる 懐かし映画主題歌 「東京行進曲」から「風速 40 米」まで (後期: 戦後篇)
平成 28 年 7 月 3 日 (日) ~ 8 月 28 日 (日)	神谷英男拓本展 ナツメロは好きですか? Part.3 S P盤時代の名曲たち
平成 28 年 9 月 4 日 (日) ~ 10 月 30 日 (日)	一宮甲冑作り同好会作品展示会
平成 29 年 1 月 6 日 (金) ~ 2 月 26 日 (日)	S Pレコード時代を飾る デビュー曲 デビュー盤
平成 29 年 3 月 1 日 (水) ~ 3 月 31 日 (金)	ちょっと変? な S Pレコードの世界 変り種のレコードたちを訪ねて 前期
平成 29 年 4 月 1 日 (土) ~ 4 月 30 日 (木)	ちょっと変? な S Pレコードの世界 変り種のレコードたちを訪ねて 後期

(3) 玉堂記念展示室 一宮市立玉堂記念木曾川図書館 3階

平成 27 年度

展示替え作業（図書館の整理休館日に実施）

- ① 平成 27 年 5 月 14 日（木）
- ② 平成 27 年 7 月 9 日（木）
- ③ 平成 27 年 8 月 13 日（木）
- ④ 平成 27 年 10 月 8 日（木）特別展展示作業
- ⑤ 平成 27 年 11 月 12 日（木）特別展撤収作業
- ⑥ 平成 28 年 1 月 14 日（木）
- ⑦ 平成 28 年 3 月 10 日（木）

特別展 宮脇晴と宮脇綾子 愛のまなざし 同時開催「川合玉堂 自然へのまなざし」

会期 平成 27 年 10 月 9 日（金）～11 月 11 日（水）
 休館日 10 月 13 日（火）・19 日（月）・26 日（月）、
 11 月 2 日（月）4 日（水）・9 日（月）
 開館時間 午前 10 時～午後 6 時
 主催・企画 一宮市・一宮市教育委員会
 会場 玉堂記念展示室、一般展示室
 観覧料 無料
 開館日数 28 日間

平成 25 年度に寄贈された新収蔵品を含む当館収蔵品の中から、宮脇晴（1902～85）と宮脇綾子（1905～95）の作品 26 点を紹介した。家族や花々など、身近なものに向けられたふたりの愛のまなざしを感じ取ってもらう内容展示とした。また、同時開催として、木曾川図書館収蔵品の中から川合玉堂作品 9 点を四季ごとに展示し、自然を愛し自らの宗旨を「大自然宗」と名乗った玉堂の自然に向けるまなざしを紹介した。三人の芸術家による三者三様のまなざしに着目しながら、博物館の収集活動の一端を紹介し、芸術文化の振興に資することを目的とした。

学芸員による展示解説・参加者 ※各回午後 3 時から

- ① 10 月 14 日（水）13 人
- ② 10 月 17 日（土）5 人
- ③ 10 月 21 日（水）5 人
- ④ 10 月 24 日（土）4 人
- ⑤ 10 月 28 日（水）3 人
- ⑥ 10 月 31 日（土）6 人
- ⑦ 11 月 3 日（火・祝）6 人
- ⑧ 11 月 7 日（土）5 人
- ⑨ 11 月 11 日（水）2 人

出品目録

一般展示室

No.	作家名	作品名	時代	所蔵
1	宮脇綾子	らん	昭和 49 年（1974）	一宮市博物館（平成 25 年度寄贈）
2	宮脇綾子	山うど	昭和 42 年（1967）	一宮市博物館（平成 25 年度寄贈）
3	宮脇綾子	干柿（二つづつの）		一宮市博物館（平成 25 年度寄贈）
4	宮脇綾子	ねぶりこ	昭和 44 年（1969）	一宮市博物館（平成 25 年度寄贈）



宮脇晴《風邪をひいた白馬鹿》
昭和 57 年（1982）一宮市博物館蔵



宮脇綾子《ねぶりこ》
昭和 44 年（1969）一宮市博物館蔵

一宮市立玉堂記念木曾川図書館 特別展 宮脇晴と宮脇綾子 愛のまなざし

2015 年 10 月 9 日〔金〕～11 月 11 日〔水〕

近年の新収蔵品を含む一宮市博物館収蔵品のなかから、宮脇晴と宮脇綾子の作品を紹介いたします。

入館無料

- ◎開館時間＝午前 10 時～午後 6 時
- ◎休館日＝10 月 13 日（火）・19 日（月）・26 日（月）11 月 2 日（月）3 日（水）・9 日（月）
- ◎主催＝一宮市・一宮市教育委員会
- ◎学芸員による展示解説 各回午後 3 時から 定員なし 申込不要
- 10 月 14 日（水）・17 日（土）・21 日（水）・24 日（土）・28 日（水）・31 日（土）
- 11 月 3 日（火・祝）・7 日（土）・11 日（水）
- ◎所在地＝愛知県一宮市木曾川図書館図書棟中 25 番地 ☎056-86-2366
- ◎交通案内＝名鉄名古屋本線新本曾川駅下車西へ徒歩約 15 分
または西尾線中央道外瀬田交差点を西へ約 100 メートル

同時開催 川合玉堂 自然へのまなざし



川合玉堂《五月雨》 昭和 24 年（1949）
一宮市立玉堂記念木曾川図書館蔵

No.	作家名	作品名	時代	所蔵
5	宮脇綾子	無花果		一宮市博物館（平成 25 年度寄贈）
6	宮脇綾子	さかな		一宮市博物館（平成 25 年度寄贈）
7	宮脇綾子	はたるいか		一宮市博物館（平成 25 年度寄贈）
8	宮脇綾子	鮎		一宮市博物館（平成 25 年度寄贈）
9	宮脇晴	黒湯		一宮市博物館（平成 25 年度寄贈）
10	宮脇晴	とへの蛙		一宮市博物館（平成 25 年度寄贈）
11	宮脇晴	山のさち		一宮市博物館（平成 25 年度寄贈）
12	宮脇晴	裸婦		一宮市博物館（平成 25 年度寄贈）
13	宮脇晴	裸婦		一宮市博物館（平成 25 年度寄贈）
14	宮脇晴	裸婦		一宮市博物館（平成 25 年度寄贈）
15	宮脇晴	裸婦		一宮市博物館（平成 25 年度寄贈）
16	宮脇晴	巻き貝と花瓶	大正 12 年（1923）	一宮市博物館（平成 14 年度寄贈）
17	宮脇晴	仔猫葡萄の図	大正 14 年（1925）	一宮市博物館（平成 14 年度寄贈）
18	宮脇晴	山への道	大正 12 年（1923）	一宮市博物館（平成 14 年度寄贈）
19	宮脇晴	八事への道	大正 14 年（1925）	一宮市博物館（平成 14 年度寄贈）
20	宮脇晴	高蔵寺玉野川	大正 7 年（1918）	一宮市博物館（平成 14 年度寄贈）
21	宮脇晴	りんご	大正 8 年（1919）	一宮市博物館（平成 14 年度寄贈）
22	宮脇晴	奥能生牢出津港	昭和 43 年（1968）	一宮市博物館（平成 14 年度寄贈）
23	宮脇晴	灼瓶のひなげし	昭和 47 年（1972）	一宮市博物館（平成 14 年度寄贈）
24	宮脇晴	ポニーの少女		一宮市博物館（平成 14 年度寄贈）
25	宮脇晴	風邪をひいた自画像	昭和 57（1982）	一宮市博物館（平成 14 年度購入）
26	宮脇晴	ミルクを飲む幼児	昭和 28（1953）	一宮市博物館（平成 14 年度購入）

玉堂記念展示室

1	新潮雙鶴	昭和 9 年（1934）頃	6	松溪夕靄	明治 35 年（1902）頃
2	柳下野馬図	明治 23 年（1948）	7	筑波	大正 13 年（1924）
3	鶴飼	昭和 29 年（1954）	8	高嶺残雪	昭和 24 年（1949）
4	五月雨	昭和 24 年（1949）頃	9	海辺晩秋	昭和 27 年（1952）頃
5	湖畔秋色図	大正 12 年（1923）頃			

平成 28 年度

展示替え作業（図書館の整理休館日に実施）

- ① 平成 28 年 5 月 12 日（木）
- ② 平成 28 年 7 月 14 日（木）
- ③ 平成 28 年 8 月 10 日（木）
- ④ 平成 28 年 10 月 11 日（木）特別展展示作業
- ⑤ 平成 28 年 11 月 10 日（木）特別展撤去作業
- ⑥ 平成 29 年 1 月 4 日（水）
- ⑦ 平成 29 年 3 月 9 日（木）

特別展 博物館収蔵品展 水墨の美 同時開催「川合玉堂 水墨作品を中心に」

会期 平成 28 年 10 月 14 日 (金) ～ 11 月 9 日 (水)
 休館日 10 月 17 日 (月)・24 日 (月)・31 日 (月)、
 11 月 4 日 (金)・7 日 (月)
 開館時間 午前 10 時～午後 6 時
 主催・企画 一宮市・一宮市教育委員会
 会場 玉堂記念展示室および一般展示室
 観覧料 無料
 開館日数 22 日間

一宮市博物館収蔵品の中から、水墨作品 6 点を紹介した。また同時開催として、木曾川図書館収蔵品の中から川合玉堂作品約 10 点を展示した。水墨と彩色の融和を目指した玉堂の作品とともに、様々な水墨作品を紹介することにより、博物館の収集活動の一端を紹介し、芸術文化の振興に資することを目的とした。

学芸員による展示解説・参加者 ※各回午前 10 時から

- ① 10 月 16 日 (日) 3 人 ② 10 月 20 日 (木) 2 人
- ③ 10 月 22 日 (土) 4 人 ④ 10 月 27 日 (木) 6 人
- ⑤ 11 月 3 日 (木・祝) 5 人 ⑥ 11 月 5 日 (土) 2 人
- ⑦ 11 月 8 日 (火) 2 人

出品目録

一般展示室

No.	作家名	資料名	時代	所蔵
1	中林竹洞	水墨山水図並賛	江戸時代後期 (19 世紀)	一宮市博物館
2	岸駒	漁舟山水図	江戸時代後期 (19 世紀)	一宮市博物館
3	渡辺清	夏景宇治山水之図	江戸時代後期 (19 世紀)	一宮市博物館
4	渡辺清	秋月雁図	江戸時代後期 (19 世紀)	一宮市博物館
5	江馬細香	二十四番花之図並賛	江戸時代後期 (19 世紀)	一宮市博物館
6	村瀬太乙	冬景山水図	江戸時代後期 (19 世紀)	一宮市博物館

川合玉堂作品

1	高嶺残雪	昭和 24 年 (1949)	7	鶺鴒 (画賛)	昭和 15 年 (1940) 頃
2	水墨山水図	大正中期 (1919 頃)	8	ふきのと (画賛)	大正 (1912～26) 頃
3	八剣神社 (揮毫)	昭和 28 年 (1953) 頃	9	玉堂の自画像	昭和 28 年 (1953)
4	跳鯉	大正 4 年 (1915)	10	写生帖	昭和 30 年 (1955) 頃
5	白礪 (習作)	昭和 5 年 (1930)	11	書簡二月二十六日 (八剣神社揮毫)	昭和 28 年 (1953)
6	香魚	昭和 28 年 (1953)	12	書簡六月十一日 (水墨山水)	昭和 28 年 (1953)

博物館収蔵品展
水墨の美
 同時開催
 特別展
川合玉堂 水墨作品を中心に
 平成 28 年
10 月 14 日 (金)～11 月 9 日 (水)
 主催：一宮市・一宮市教育委員会 企画：一宮市博物館
 会場：一宮市立玉堂記念木曾川図書館3階
 開館時間：午前 10 時～午後 6 時
 休館日：10 月 17 日 (月)・24 日 (月)・31 日 (月)、11 月 4 日 (金)・7 日 (月)

学芸員による展示解説
 10 月 16 日 (日)・20 日 (木)・22 日 (土)・27 日 (木)・
 11 月 3 日 (木・祝)・5 日 (土)・8 日 (火)
 各回午前 10 時から 定員なし 申込不要